



平成29年度 こうちこどもファンド 事業報告書



【目次】

1	平成 29 年度事業スケジュール	1
2	助成を決定する審査員等	2
3	公開審査会	3
4	助成団体の活動	5
5	助成団体活動発表会	6
6	平成 29 年度高知市子どもまちづくり基金実績	23
7	今後に向けて	24

【資料編】

- ・高知市子どもまちづくり基金条例
- ・高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱
- ・平成 29 年度活動発表会アンケート結果
- ・「こどもファンド通信」第 22 号（平成 29 年 5 月発行）
- ・「こどもファンド通信」第 23 号（平成 29 年 8 月発行）
- ・「こどもファンド通信」第 24 号（平成 30 年 2 月発行）
- ・募集案内リーフレット（平成 30 年度事業募集及び第 7 期こども審査員募集）

ごあいさつ

こどもたちが自ら、高知のまちについて関心を持つきっかけとなり、「高知をもっと好きになってもらいたい」「高知で生まれ育ったことを誇りに思うように育ってもらいたい」という思いで始めた「こうちこどもファンド」ですが、市民の皆様のご協力や、企業・団体、個人の皆様からのご寄附など、様々のご支援をいただきながら6年目を迎え、平成29年度は応募いただきました6グループ全てに助成を行いました。

今年度も防災をはじめ、地域での挨拶運動や食を通じた交流事業、まち歩きによるマップ作成など、こどもたちの自由な発想による活動が熱心に行われました。

近年、発生が予想される南海トラフ地震に備え、防災活動を盛り込んだ提案が多くなっていますが、こどもたちも自分の住んでいる地域の現状をよく勉強し、それぞれの活動に活かすことで、自分たちのまちをより住みよいまちにしたいという思いが伝わってまいります。

公開審査会で助成が決定してから約8か月間の活動の中で、こどもたちが仲間と悩み議論を重ね、地域内外の方たちとの連携や交流を行うなど、普段の生活では味わえない様々な経験を積んできたと思います。この活動をきっかけとして、まちづくり活動の輪をさらに広げていくことができるように、今後もこどもたちの活動を支援してまいりたいと考えております。

最後になりますが、まちづくり活動に取り組んだこどもたちの今後の活躍に期待するとともに、制度創設から携わっていただいております卯月先生、また制度の運営に関しまして重要な役割を担っていただいておりますこども審査員及び大人審査員の皆様、こどもファンドアドバイザー、こども審査員サポーター、そして活動を応援していただいた皆様に感謝を申し上げ、ごあいさつとさせていただきます。



高知市長 岡崎 誠也

1 平成 29 年度事業スケジュール

	運営等	広報等
4 月	16 日 事前説明会 (会場：市民活動サポートセンター)	
5 月	10 日 助成事業応募締め切り	こどもファンド通信(第 22 号) 発行
6 月	11 日 事前研修会(こども審査員) 18 日 公開審査会 (会場：市南部健康福祉センター)	平成 28 年度事業報告書発行
7 月		
8 月	助成団体の活動期間	こどもファンド通信(第 23 号) 発行
9 月		
10 月		平成 29 年度公開審査会報告書 発行
11 月		制度紹介チラシ発行
12 月		コミュニティ計画推進市民会議定例会、地域内連携協議会で事業募集、第 7 期こども審査員チラシ配布(随時)
30 年 1 月		<ul style="list-style-type: none"> ・民生委員児童委員協議会会長会で事業募集、第 7 期こども審査員募集の周知 ・市内近隣小中高校へ、事業募集及び第 7 期こども審査員募集チラシ配布開始 ・とさつ子タウン実行委員会で事業募集、第 7 期こども審査員募集の周知
2 月		<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ計画推進市民会議定例会でチラシ配布(随時) ・こどもファンド通信(第 24 号) 発行
3 月	18 日 活動発表会 第 7 期こども審査員応募者面接 (会場：市南部健康福祉センター)	

2 助成を決定する審査員等

(1) 審査員について

こどもファンドの審査は、「大人審査員」と「こども審査員」が一緒に行います。大人審査員は、学識経験者・民間企業関係者・まちづくり活動関係者・行政などの分野からなる7名で構成されています。平成29年度の第6期こども審査員は、小学校4年生から高校3年生までの9名で構成されました。こども審査員は、審査会の1週間前に「事前研修会・模擬審査会・事前審査会」を行い、公開審査会に向けて準備を行いました。

○事前研修会

こどもファンドの事業趣旨を学ぶとともに、自分たちが審査する時のポイント（審査項目）を話し合い、決定しました。

その際、こども審査員のサポート役として、「こども審査員サポーター」を配置し、審査ポイントを話し合う際の、子どもたちの意見の引き出し役や、公開審査会当日、こども審査員を影で支援する役割を担っていただきました。



○模擬審査会

模擬プレゼンテーションを行い、決定したばかりの審査項目に添ってこども審査員が実際に審査を体験しました。

○事前審査会

応募グループから出された申請書の内容について、大人・こども審査員が情報を共有しました。



(2) 申請団体側のサポートについて

「こどもファンドアドバイザー」を配置し、①こどもファンドへ応募するまでの企画を検討するとき②応募後、公開審査会での発表方法を考えるとき③助成決定後の活動時の3段階におけるアドバイスを行っていただきました。

こども審査員（9名）

永井 知輝（秦小学校4年）、増田 光祥（高知小学校5年）、勝田 佑（三里小学校5年）、宇賀 みくも（城西中学校2年）、森本 向日葵（大津中学校2年）、田部 祥一郎（城西中学校2年）、塚崎 史織（一宮中学校2年）、西本 春菜（高知北高校3年）、溝渕 由希（土佐女子高校3年）

大人審査委員（7名）

審査委員長・卯月 盛夫（早稲田大学社会科学部・社会科学総合学術院教授）、審査副委員長・吉門 文恵（株式会社ケンジン取締役・専務）、梶 英樹（高知大学地域連携推進センター地域コーディネーター特任助教）、尾崎 昭仁（特定非営利活動法人NPO 高知市民会議プロジェクトマネージャー）、横田 寿生（市教育長）、神崎 修（市市民協働部長）、山川 瑞代（市こども未来部長）

サポート役（2名）

こども審査員サポーター・佃 典高（市教育委員会学校教育課 指導主事）、

こどもファンドアドバイザー 畠中 洋行

※役職・学年等は平成29年度のものです

3 公開審査会

○日時：平成 29 年 6 月 1 8 日（日） 13 時 30 分～17 時

○場所：高知市南部健康福祉センター 2 階大ホール



13:30 **こどもファンド公開審査会 開会**

副市長あいさつ、本日のスケジュール説明、
審査員紹介（決まった審査項目をこども審査員代表が発表）

13:40～ **応募団体による公開プレゼンテーション 開始**

応募団体が3分以内で発表し、それに対して審査員が5分以内で質問を
します。6団体が発表します。

14:40～ **休憩**

休憩時間の中に、こども審査員が一次判断を行います。（青いシール貼り）

14:55～ **審査員による公開協議**

一次判断の結果について、審査員が公開で話し合いを行います。そのなかで、
審査員から、もう少し聞きたいことがあるというグループについては、再度、審査
員から質問します。

15:50～ **休憩**

休憩時間の中に、こども審査員が最終判断を行います。

16:05～ **審査結果発表**

16:10～ **こども審査員からの感想発表**

16:30～ **審査委員長からの講評**

16:50 **閉会**



(1) 審査の流れ

①助成申請した活動内容について、応募団体がプレゼンテーションを行います。(持ち時間3分間)

②各応募団体のプレゼンテーションが終了するごとに、審査員との質疑応答の時間を設けます。

(5分間)

③公開プレゼンテーションと質疑応答の結果をふまえて、こども審査員9名が、各応募事業について「いいね!」「もう少し質問がある」「もうちょっと!」のいずれの項目に該当するか、一次判断を行います。

④一次判断の結果をもとに、助成をするかしないか、こども審査員と大人審査員が、公開で審議を行います。「もう少し質問がある」「もうちょっと!」にシールが貼られている団体に対して、審査員から再度、質疑応答の時間を設けます。

⑤公開での審議後、こども審査員9名が、助成するかしないかについての最終判断を行い、こども審査員の過半数、5名以上が助成すると判断した場合に助成が決定します。

⑥審議結果については、公開の場で発表します。



(2) 審査結果

応募された6団体すべてが助成決定されました。

助成団体名	活動のテーマ	審査結果	助成金額
南海ふれあい応援隊	ふれあいで地域を元気にしよう	採択	200,000円
旭地区防災食プロジェクト	地いきのみんなの食事を守るんジャー	採択	200,000円
にじいろ発見隊	こども目線でやさしいまちをつくる	採択	200,000円
太平洋学園コミュニティー協力隊	学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ ～被災地から学ぶ防災・被災の対策～	採択	176,300円
高知市立久重小学校6年生	国際色豊かで災害に負けない久重地区を作ろう	採択	200,000円
一宮家おもてなし隊	一宮家はひとつの大家族やき!!	採択	200,000円

※なお、公開審査会の内容の詳細は、平成29年10月発行の「こうちこどもファンド 平成29年度審査会報告書」に掲載しております。

4 助成団体の活動

○助成活動期間：平成 29 年 7 月 1 日 ～ 平成 30 年 2 月 28 日

審査会において助成決定された 6 団体は、それぞれ次のような活動を行いました。

平成29年度こうちこどもファンド助成決定団体一覧

No.	団体名	支援団体等	活動テーマ	活動内容	活動期間	こどもメンバー 代表者名	大人サポーター (責任者)	助成金額 (円)
1	南海ふれあい応援隊	南海中学校区地域校園協働会議 浦戸小学校 長浜小学校 南海あったか応援団	ふれあい地域を元気にしよう	○ふれあい教室の開催 ○ふれあい食堂の開催	平成30年2月28日 完了予定	南海中学校2, 3年生 10名 今西 悠斗(3年生)	永原 潤一 南海中学校教頭	200,000
2	旭地区防災食プロジェクト	旭小学校 旭小学校区青少年育成協議会 高知大学防災すけっと隊	地いきのみんなの食事を守るんジャー	○防災かまどベンチの製作 ○さつまいもの栽培	平成30年2月28日 完了予定	旭小・中学校 9名 秋山 優音(旭中1年)	秋山 和久 保護者	200,000
3	にじいろ発見隊	はりまや橋小学校体育会 さえんば商店街振興組合	こども目線でやさしいまちをつくる	○はりまや橋小学校区のまち歩き マップ作成	平成30年2月28日 完了予定	はりまや橋小学校6年生 3名 青木 晴楓	青木 聖子 保護者	200,000
4	太平洋学園コミュニティー協力隊	太平洋学園生徒会 太平洋学園PTA 米田町西公園愛護会	学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ～被災地から学ぶ防災・被災の対策～	○熊本地震被災地現地視察 ○学内・地域での防災啓発活動	平成30年2月28日 完了予定	太平洋学園高等学校2, 3年生 15名 竹澤 俊樹(3年生)	光富 祥 太平洋学園高等 学校校長	176,300
5	高知市立久重小学校6年生	久重地域連携協議会 久重自主防災連合会	国際色豊かで災害に負けない久重地区を作ろう	○国際食文化交流会開催 ○国際遊び交流会開催 ○防災食品試食会開催 逃げ地図作り	平成30年2月28日 完了予定	久重小学校6年生11名 和田 拓真 橋詰 倅奈	上村 国之 久重小学校校長	200,000
6	一宮家おもてなし隊	一宮中コーラス部	一宮家はひとつの大家族やき！！	○あいさつ運動 ○高齢者施設訪問、清掃 ○防災グッズ作り ○道徳カルタ作り	平成30年2月28日 完了予定	一宮中学校 19名 佐井 健竜	柳谷 百香 一宮中学校教諭	200,000

5 助成団体活動発表会

○日時：平成30年3月18日（日） 13時30分～17時

○場所：高知市南部健康福祉センター 2階大ホール



13:30 **開会**

☆本日の説明

13:40～ **助成団体による活動成果発表 開始（6団体発表）**

○各団体3分～5分以内で活動成果発表と、審査員との質問や意見交換

※発表を聞いている人は、いいところやメッセージ、活動の中の良いアイデアを「ふせん」に書く。

14:40～ **休憩・投票タイム（15分）**

○活動団体に対する賞の投票

※発表中に書いた「ふせん」を各団体の模造紙に貼る。

14:55～ **交流タイム ～今後に活かすグループワーク～**

○助成団体ごとに他団体の活動のアイデアで自分達に活かせることの話し合い

○団体ごとに話し合った内容の発表

15:55～ **休憩（5分）**

16:00～ **市長あいさつ**

16:05～ **団体表彰**

16:10～ **こども審査員感想発表**

16:20 **審査委員長からの講評**

16:30 **閉会**



(1) 活動発表会について

3月18日(日)に、平成29年度の助成団体活動発表会が開催されました。6つの助成団体が、自分たちが取り組んだ活動について、1グループ5分以内で発表を行いました。

助成が決定してから8ヶ月間、学業やクラブ活動など、多忙なスケジュールを調整し、自分たちの住む「まち」をより良くしていきたいという思いで、活動してきた子どもたちの発表は頼もしく、大きく成長した姿を見ることができました。

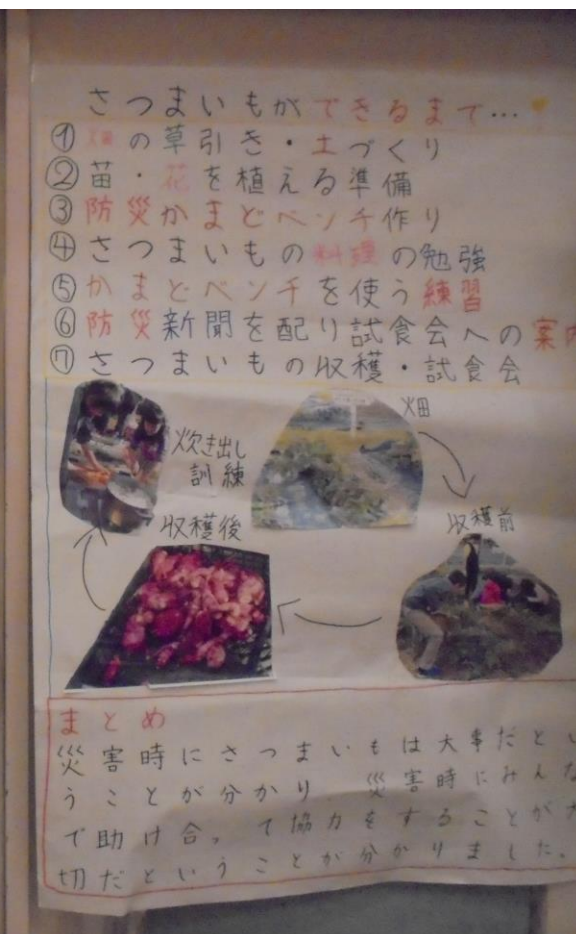
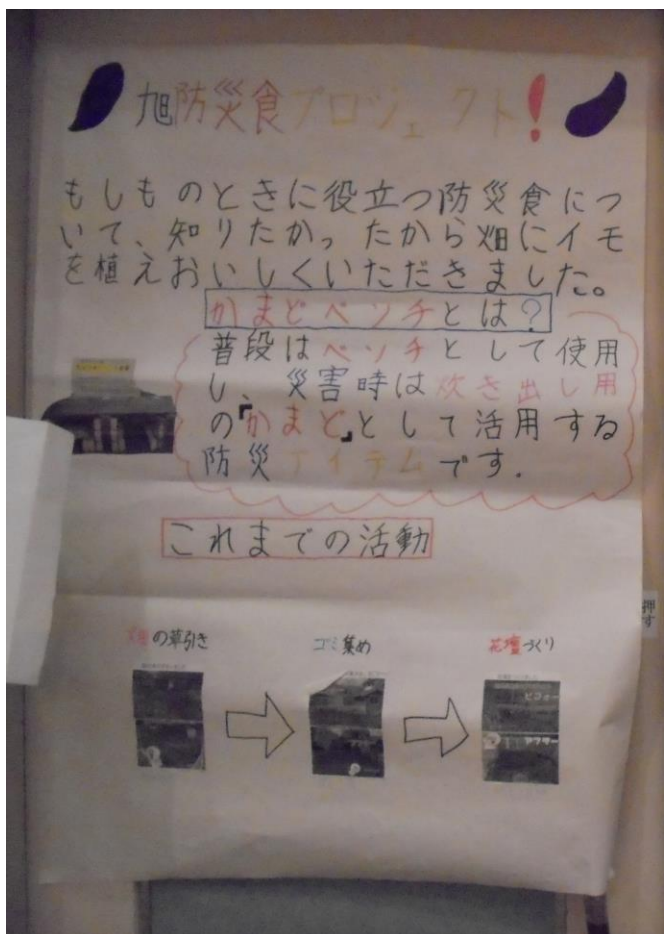
南海ふれあい応援隊

地域の大人の方に講師になってもらい、スポーツ・遊び・野菜づくり・釣りなどの「ふれあい教室」という出前講座を企画し、夏休みを中心に開催しました。また、地域の食材を使った朝食を地域の方と一緒に作って食べる「ふれあい食堂」も開催しました。参加者にバッジを配るなど工夫し、地域の絆を深めるために活動しました。



旭地区防災食プロジェクト

旭小学校の中にある畑を使って、防災食（さつまいも）を栽培しました。台風の影響で作物が飛ばされそうになったこともありましたが、地域の人たちと協力して収穫ができました。また、「防災かまどべんち」を作って地域との交流会を開催したり、防災新聞を発行するなど、農作業や防災について学びながら、地域との交流を深めました。



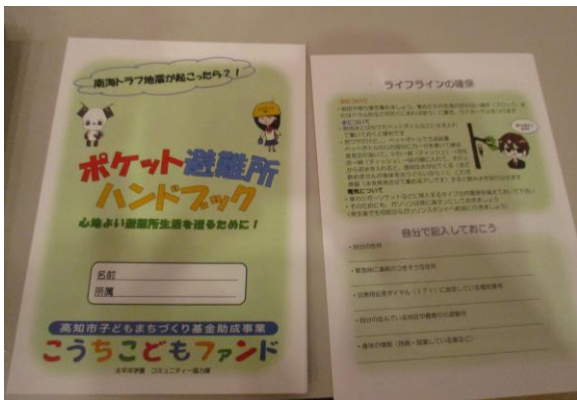
にじいろ発見隊

はりまや橋小学校区内の地域の方にインタビューをしながら、「おすすめ・ふしぎ・おもしろい・びっくり・おいしい・危ない・注目」の7つの視点でまちを探検し、集めた情報が一目で分かるマップを作成しました。完成したマップを使って、消防団や地域の方と一緒にまちを歩いてみるなど、自分たちのまちをよりよくするために活動しました。

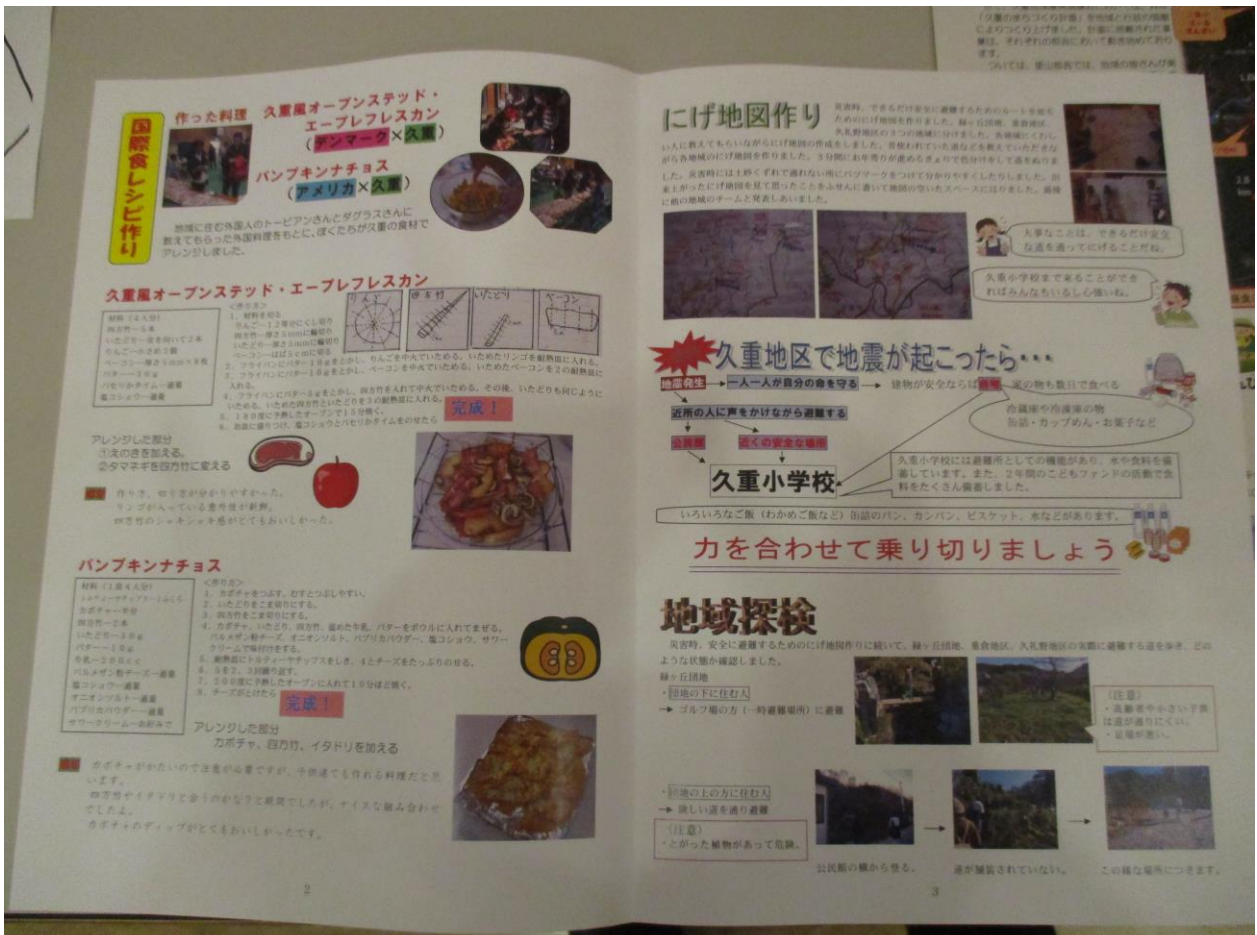


太平洋学園コミュニティー協力隊

地震の被災地である熊本を視察し、防災に関するパネルを作製し、地域での防災活動を行いました。また、防災啓発のためにリーフレットやハンドブック、ポケットティッシュを作成し、地域で配布活動を行いました。3月には学んだことを地域の公民館で発表し、避難所運営ゲームを行うなど、地域との交流を行いました。



「防災」「国際交流」の2つのテーマで、地域の方と一緒に活動をしてきました。防災では、防災食試食会を開催したり、避難経路を記した逃げ地図を作って、それをもとに地域探検を行うなど活動しました。国際交流では、地域の食材を使った外国レシピの開発や、久重・外国の昔遊び体験交流を行いました。



一宮家おもてなし隊

地域の絆を深めるために、日々のあいさつ運動・清掃活動・防災グッズの作製・高齢者施設での交流などの活動を行いました。今年度は大島青松園を訪問し、そこで暮らす人々の生き方など道徳について学んできました。それを元に今後は「道徳カルタ」を作成し、地域の方と交流を行っていく予定です。



(2) 交流タイムでの発表・質問について

各団体の発表を聞いている間に、他のグループは自分達の活動に活かせるようなアイデアを、参加者・審査員は各団体の発表や活動内容の良いところやメッセージをふせんに書いて、模造紙に貼り付けました。交流タイムでは、貼られた付箋の内容をもとに、他のグループの活動アイデアで今後の自分達の活動に活かせるようなことを考えるグループワークを行い、その後発表・質問を通じて交流を図りました。



南海ふれあい応援隊

○今後に活かせるような活動の発表

- ・太平洋学園コミュニティー協力隊のティッシュ作成や配布のアイデアを地域の防災行事などで活かしたい。
- ・旭地区防災食プロジェクトの「防災かまどべんち」は私達の学校にもあるので、活用していきたい。

○他のグループへの質問

- ・特になし



旭地区防災食プロジェクト

○今後に活かせるような活動の発表

- ・パンフレットや地図、バッチ、キャラクター等の作成が参考になった。
- ・他団体との交流をしてみたいと思った。

○他のグループへの質問

- ・ふれあい食堂について、メニューや参加人数はどのように決めたのか。(南海ふれあい応援隊への質問)
⇒メニューはご飯やスープなどで、参加人数は決めていなかった。
- ・マップ作成にはどれぐらい時間がかかったか。(にじいろ発見隊への質問)
⇒インタビューなど情報収集も含めて、1年位かかった。



にじいろ発見隊

○今後に活かせるような活動の発表

- ・南海ふれあい応援隊の学校行事に併せて活動をPRしている点を参考にしたい。
- ・旭地区防災食プロジェクトが下級生を巻き込んで活動している点を参考にしたい。
- ・太平洋学園コミュニティー協力隊のティッシュ配りなど、多くの人に配ってPRする点を参考にしたい。



- ・久重小学校6年生の発表にクイズを入れている点や、一宮家おもてなし隊のキャラクターや土佐弁で発表している点などを参考に、人を引き付ける発表をする工夫をしたいと思います。

○他のグループへの質問

- ・下級生と仲良くなる秘訣を教えてください。(旭地区防災食プロジェクトへの質問)
⇒交流会等を行うことが大事だと思う。

太平洋学園コミュニティー協力隊

○今後に活かせるような活動の発表

- ・他のグループが地域の方との関わりを重視していることを参考に、私達も幅広い方が親しみやすい企画を考えていきたい。

○他のグループへの質問

- ・ふれあい教室の宣伝は地域の人へどのように行ったのか？(南海ふれあい応援隊への質問)
⇒チラシの配布を行った。
- ・外国人と交流をする上で、どのように外国の方に呼びかけを行ったのか。(久重小学校6年生への質問)
⇒ALTの先生に繋いでもらったり、久重に住んでいる外国の方に直接お願いをした。



高知市立久重小学校6年生

○今後に活かせるような活動の発表

- ・旭地区防災食プロジェクトのかまどべんちの製作や、防災食を自ら育てるところを参考にしたい。
- ・太平洋学園コミュニティー協力隊の現地視察や、ティッシュ配布等で活動をPRするところを参考にしたい。

○他のグループへの質問

- ・ふれあい教室などで、多くの地域の人をどうやって集めたのか教えてください。(南海ふれあい応援隊への質問)
⇒部活動をしている生徒への呼びかけや、保護者へのチラシ配布を行った。



一宮家おもてなし隊

○今後に活かせるような活動の発表

- ・太平洋学園コミュニティー協力隊のティッシュ配布を参考にしたい。
- ・旭地区防災食プロジェクトの防災食を育てるアイデアを参考に、私達も地域交流を兼ねて、学校のグリーンクラブの生徒と一緒に農作物を植える活動をしてみたい。
- ・にじいろ発見隊のマップ作成を参考に、防災ハザードマップを作りたい。



○他のグループへの質問

- ・特になし

こども審査員からの提案（あの団体のアイデアをこの団体に活かそう！）

○南海ふれあい応援隊への提案

- ・旭地区防災食プロジェクトで育てた野菜や、久重小学校6年生の外国料理をふれあい食堂で提供する。

○旭地区防災食プロジェクトへの提案

- ・育てた野菜の料理方法を学習して、作ってみる。
- ・久重小学校6年生と活動をした外国の方と一緒に、外国人の口に合う防災食を考えてみる。

○にじいろ発見隊への提案

- ・地域の人と一緒にマップ作りをしてみる。
- ・太平洋学園コミュニティー協力隊のように、完成したマップを高知駅等で配布してみる。

○太平洋学園コミュニティー協力隊への提案

- ・学校の近くの店舗等に成果物を置いてもらう。

○高知市立久重小学校6年生への提案

- ・南海ふれあい応援隊のふれあい食堂を開催し、外国の方に日本の朝食を食べてもらう。
- ・旭地区防災食プロジェクトのように、防災食を自分たちで育ててみる。
- ・キャラクターを作成し、PRに活用する。

○一宮家おもてなし隊への提案

- ・キャラクター（ひややっこ・おややっこ）を地域内外でPRする。



(3) 団体表彰

平成 29 年度活動発表会では、以下の賞を決定し、表彰しました。

○ベストパフォーマンス賞

活動内容や発表会でのプレゼンテーションが一番良かったグループ（会場投票により決定）



高知市立久重小学校6年生



○ベストピカッと賞

活動の進め方や活動内容について、工夫や面白さが感じられたグループ（審査員投票により決定）



旭地区防災食プロジェクト



○ベストこどもファンダ賞

発表会でのプレゼンテーション、活動内容など、一番よかったと思うグループ（審査員投票により決定）



にじいろ発見隊



(4) こども審査員からの感想発表

第6期こども審査員の皆さんに、審査員を経験してみたの感想や、応募団体のプレゼンを聞いて審査した感想などを発表してもらいました。

○宇賀委員

1年間お疲れ様でした。私は5年前ぐらいから審査員をやらせてもらっていますが、年が替わるごとに各団体の皆さんがレベルアップし、今年は審査員をしていた子が団体側に回るなど、地域を良くしようという気持ちが伝わってきました。また来年も審査員をやらせていただきたいと思うので、よろしくお願いします。お疲れ様でした。



○森本委員

審査員4年目の森本です。1年間の活動と発表、お疲れ様でした。今年は工夫されたアイデアがたくさんあり、聞く側としてもとても面白かったです。一番印象に残ったのが南海ふれあい応援隊のふれあい食堂です。「子どもたちが食堂を開いて地域と交流する」、これは新しい交流の仕方ではないかと思いました。今日の発表では、各団体が他の団体の活動などを考える時間がありましたが、例えば自分のチームで他のチームの意見を取り入れて活動したり、2つのチームが一緒になって活動したりするなどをしていても、面白いのではないかと思いました。1年間お疲れ様でした。



○増田委員

僕は審査員3年目ですが、年々どのチームも活動が進化しているなと感じました。今年特に気になったのが、一宮家おもてなし隊さんのキャラクターがすごく面白くていいなと思いました。来年もし審査員をやれたら、そういう所も見ながら頑張りたいと思います。1年間お疲れ様でした。



○勝田委員

1年間お疲れ様でした。僕は審査員2年目になりますが、今年はいろんなチームが工夫して、発表していたのがすごいと思いました。来年からもまたどんどん新しいチームが出てきたり、活動していく人も増えると思いますが、皆さん頑張ってください。本当に1年間お疲れ様でした。



○永井委員

永井知輝です。緊張してあまり言う言葉が出てこないです。僕は今年審査員を初めてしましたが、皆さん1年間お疲れ様でした。



○溝淵委員

私も今年が初めてですが、来年からは大学生になるので、こども審査員はもうできないんですが、1年だけでも本当に活動の企画からワクワクさせられるようなのがたくさんありました。これからも頑張ってください。ありがとうございました。



○西本委員

皆さん、発表と1年間の活動、本当にお疲れ様でした。私は今年初めて審査員を務めさせていただきましたが、先ほどの溝渕さんと同じで、来年からは大学生になりますので、本当に最初で最後のこども審査員でした。昨年の公開審査会の時に、皆さんの活動を1年間、そして1年後、またお会いするのが楽しみだなと思

っていたのですが、1年間の凝縮された活動発表を聞くことが出来て、とてもうれしかったです。こどもファンドで活動する事も大事なんです、その活動を通して地域でつながりを作っていくという事が大切だと私は思っています。こどもファンドの活動を通して、地域でその輪をどんどん広げていって、皆さんの若い力を存分に発揮していただけたらと思います。来年度また参加される方は、ぜひ頑張ってください。皆さんのこれからのご活躍を心から願っています。ありがとうございました。

(5) 島中こどもファンドアドバイザー 講評



皆さん、ご苦労様でした。

今日の6つの団体さんの発表ですが、本当に素晴らしかったと僕は思っています。というのは、今日午前中に、高知県立大学の「立志社中」という助成を受けて1年間活動してきたグループが発表する会があり、その審査員をやってきました。その大学生の発表とそんなに変わらないというか、皆さんの発表の方が胸に響い

てくるものがあったように感じています。素敵な発表を聞かせていただき、ありがとうございました。皆さんの発表やグループワークの様子を見させていただいて、いくつかこんな事が大事なんじゃないかな、あるいはこんな事ができるようになるといいかな、ということは何点かお話しをしたいと思います。

まず1つは、皆さんの発表の中にもありましたが、「南海ふれあい応援隊さんのふれあい教室のアイデアがすごい」ということが他の団体の皆さんに伝わっていると思います。何がすごいのかというと、やはり地域の方や自分達の友達・仲間・学生の皆さんが参加しやすい仕組みになっているという事だと思うんです。これはテレビでいうと、今高知のチャンネル数は全部で5チャンネルですが、テレビというのは自分が見たくなかったら見ませんよね？見たいものは見ますが、見たくなかったらそれは選ばない。でもこのふれあい教室の面白い点は、「皆さんが行ってみたいどこかに、誰かが引っかかってくれないかな」といった考え方で、見たいチャンネルと一緒になんです。「参加してみたら面白そうだな」というチャンネルをたくさん構えていてくれる所が「ふれあい教室」なんだと思っていて、このアイデアがすごいということが皆さんに伝わっていると思います。それと、もう1つの面白い点は、現在の南海ふれあい教室の講師は地域の大人の人だと思えますが、まだ皆さんが「何かをちょっと一コマ教えてみよう」という取り組みはまだやってないですよ。だから次のステップとしては、自分たちが得意な事を仲間や地域の人に伝える一つの教室ができて面白いと思いますし、それができれば「自分達や地域の人を持っている得意技を生かせる場所をつくる」という事に繋がると思います。そういうことを続けていくと、例えば地域の中での困りごと

や悩み事について、ひょっとしたらこのふれあい教室を通じて、自分たちでお手伝いできることを発見できる場所になるのではないかと僕は思っています。これは多くの団体の皆さんが参考にしたいと思っている点だと思います。

2つ目が、旭地区防災食プロジェクトの話の中で、「防災すけっと隊」という高知大学の学生さん達とのふれあいがあったことを聞きました。ここに1つキーワードとして出てくるのが、「大学生達の力を借りる」ということで、皆さんのこれから取り組みをもっと豊かにしていくことができるのではないかと思います。例えば、一宮地域にある市民会館で、県立大の学生さん達が毎週月曜または毎月第3日曜の午前中に「スピカ」という子どもの居場所づくりの活動を行っているということを、今日県立大の学生さんから話を聞きました。そういう意味では、一宮家おもてなし隊さんも県立大の方々と繋がる機会があると思いますし、ひょっとしたら他の団体の皆さんもどこかで大学生の力を借りるということができるかもしれません。今日の審査員の中で、先ほど発表されていた西本さんはこの4月から高知大学の地域協働学部へ行かれますので、「うちの地域でちょっと力を貸して」と西本さんに相談してみるということも面白いのかもしれない。せっかくこのような場で繋がっていますので、ぜひ大学生の力を借りるという事も考えてみてはいかがでしょうか。

それからもう1つが、皆さんの注目を引いた旭防災食プロジェクトの「かまどべんち」です。発表を聞きながら思い浮かんだのが、高知市立久重小学校6年生の活動でした。久重小学校も防災に関する活動をやっていますが、このかまどを作らなくても、久重は周りに畑や田んぼがたくさんあります。素敵な里山があって、そうすると災害が起こった時にその周りにある木や木片などを活用して、そこで「サバイバルかまど」のようなものを作ってみたいというような事に挑戦してみるのも面白いのかなと思いました。また、作るだけでなく、そこにあるものを使って生きていくためにどうすればいいかを久重の里山であればできるのではないかと思います。

そしてもう1つが、太平洋学園コミュニティ協力隊さんの「現地を視察する」という事、これに皆さんがかなり共感していましたね。現場を知るという事の大切さ、これは実際に自分達がやろうとしている事の現場を見に行くという事だけではなく、「自分達の地域の現場を知っているのかな」という所に戻ってくると思うんですね。「自分たちの地域の中にある面白い人がこの辺りにいる」とか、「この辺りに魅力的なものがある」とか、「この辺りは困ってるような要素がある」といったように、地域の事をもう1回自分達で振り返ってみて、そこから何かを見つけ出していくというような事も、実は太平洋学園さんの「現地視察」という言葉の中から導き出されているのではないかと思います。

そしてもう1つが、この「防災新聞あさひ」はすごく面白くて読みやすいと思いますが、これはどなたが作られたんですか？

⇒ (旭地区防災食プロジェクト) これは朝日新聞の広報を作っている、小松さんという方をお願いして作ってもらいました。

さっきの話し合いの中でも出ましたが、「多くの人に知ってもらう」というキーワードがありました。新聞・マップ・リーフレット・ティッシュ・キャラクター・バッジなど、各団体で色々な物を作っていると思いますが、これらは周りの人に伝えやすくするための1つの道具だと思うんですね。こういったものを「上手に活用して広報する」「知ってもらう」「それをまた置いてもらう場所

を探していく」、こういったことを通じてコミュニケーションが生まれて、自分達がやろうとしている事を知ってもらうことにつながっていくのではないかと思います。

あと南海ふれあい応援隊が作ったこどもファンドの名前の入った缶バッジ、これは市役所の方は大喜びだなと僕は思ったんです。というのは、意外と世間的にこどもファンドの事はまだまだ知られていないんですね。例えば新聞等に活動内容の記事が出るとしても、紙面の都合がありますので「こどもファンドの助成を受けて」という文言が消えてしまっているということもあります。「こどもファンドでやっている」という事を多くの人に知ってもらう手段の一つとして、缶バッジに「こうちこどもファンド」の文字が入っていると嬉しいですね。みんなに知ってもらうツールになりますので、できれば皆さんもこの助成で何か物を作ったり取り組む際には、こういったことを意識してもらおうと、市役所の方は喜ぶなと思います。また寄付をいただいていますので、「こうちこどもファンド」がいろんなところで目に入ったら、「あ、こんな風に活躍してるんだ」ということを多くの人に知ってもらえると思いますので、そういうことも頭の隅っこに置いておいて欲しいなと思います。

最後に、旭防災食プロジェクトの農作物の栽培も、皆さんかなり食いついていました。やはり、「物を作って自分達が育ててそれを最後に食す」、あるいは「それを調理をする楽しさ間で体験して、最後に皆で楽しんで食べる」というこのつながりが、非常に面白い仕組みになると思います。その可能性は久重にもあるかもしれませんし、ひょっとしたら南海にもあるかもしれません。そういったこともどこか心の片隅に置いていただいて、今後の取り組みを考えてもらえたらいいのではないかと思います。長くなりましたけども、皆さんのお話を聞いていて感じた事、伝えたかった事をお話させていただきました。どうもありがとうございました。

(6) 卯月審査委員長 講評



最後になりました、少しだけ感想を述べさせていただきます。市長の話にもありましたように、今回でこうちこどもファンドも6回目ということになりました。公開審査会と今日の活動発表会の2回皆さんに来ていただいて、審査員・活動団体でコミュニケーションを図っているわけですが、今日の報告会が今までで一番充実していました。

事務局の工夫にもよりますけれども、これまでは「発表会」ということで発表することに重点がありまして、その後の審査員と活動団体、あるいは活動団体同士のコミュニケーションが時間的に取れない構成になっていましたが、今年は事務局が工夫をして下さり、発表後に審査員とのやり取りがまず1つありました。これは聞いていて思ったんですが、6月の時の公開審査会ですと、やはりこども審査員の皆さんもどうしても「審査するんだ」ということで、「このお金は何に使うんですか?」「本当に必要なんですか?」と色々質問して下さったこともありまして、結構緊張した関係があったと思います。それに対して、今回はすでに活動を終え、成果もかなり見えてきたという、活動団体の皆さんにこども審査員の質問がとても新鮮に聞こえて、やれたことについてはきちんと回答いただきました。これぞまさにこの助成金の目指すところでありまして、「こども審査員の意見と活動したこどもたちのやり取りがきちんとできた」ということを僕は高く評価したいと思います。

2つ目には、先ほど畠中洋行さんが言われたように、各グループ同士の学び合っというのを我々も常に考えながら事務局と議論してきたんですが、今日はその時間をキチッと取れたっていう事が素晴らしかったと思います。自分の団体がこれから活動していく時に、他の団体でやっている新しい手法・アイデアを取り入れていこうという積極的な事が今回いくつも出ました。もう具体的には挙げませんが、次年度も皆さんまた応募して下さると思いますので、その時に「どんな計画書が出てくるんだろうか」ということを今から楽しみにしています。これは私だけでなく、こども審査員や大人審査員の皆さんが思っていることだと思います。こうちこどもファンドの企画当初は、小学生の審査員3人、中学生の審査員3人、高校生の審査員3人の合計9人でスタートしました。本当に思い出しますけれども、市役所の方と「こんなことできる?」「小学生・中学生・高校生、年齢の違う子どもたちのコミュニケーションができるか分からないし、応募してきた子どもたちと質疑応答がきちんとできるのかどうか分からないよ」というような不安混じりで始めたんですが、私は今日この6年目にしてかなり成果が見えてきたという風に思います。4~5年間続けて下さっているこども審査員、もう帰ったかもしれませんが、こども審査員の卒業生も今日何人か来てくれています。大学へ進学した、あるいは就職したような子どもたちがこのわずか6年ではありますけれども、着実に育ってくれていて、ある時期こどもファンドで活動したことが気になって、きっと今日も来てくれているんだと思います。こども審査員の同窓会をそのうち作らなければいけないんじゃないかっていうことも思ったりしています。そういった意味で、今回はとても大きな節目だったという事をまずは申し上げたいんですが、もう1つだけ申し訳ありません。

ほとんど細かい事は畠中洋行さんが言うてくださったので、それに加えて1つだけ、やはり僕が今日特に面白いと思ったのは「にじいろ発見隊」の活動です。こども審査員を務めていた青木さんが、むしろ活動側に回りたいということでこども代表者として応募されました。そして、審査会の時に「私は審査員を務めてきたのでポイントは分かっています」「活動のポイントは分かっています」って言われたんですよね。それを聞いたときに「このセリフを言われたら負けるなあ」と僕は思っていたんですが、今日はそれが成果として現れましたね。既にほかのグループの方も言っていました、まちづくりの方法は色々なものがあるんですけども、重要な方法の1つに「人の話を聞く」ということがありまして、地域の課題を知ったりその解決方法を考える時にはこれが非常に重要な事になると思います。このにじいろ発見隊は、なんと夏休み中心に100軒のお店の人たちにコンコンと突然訪ねて行って、「すいません」といって話を聞いてきた、これはそう簡単にできることじゃないと思いました。それを受け入れてくれた商店街の人も、おそらく小学生や中学生がそんな風に訪ねて来たら、まず断れないですよね。そこに「こどもの力」というものがあって、「高知のまちのためならばいいよ」「常日頃考えていることを伝えてあげるよ」と言って、親切にしてくれたんだと思うんですよね。先ほどマップを見ていたら、「ここのおばちゃんがとても優しくかった」とか色々書かれていますよね。それで1つ思いましたんですが、僕はドイツのまちづくりの事を研究してまして、ミュンヘンに5年間ぐらい続いている制度として「こどもに優しいお店」「こどもに優しい人」を選ぶっていう表彰制度があるんです。やっている事はにじいろの発見隊の活動と同じようなもので、こどもたちが1軒1軒ヒアリングをしたり、あるいは日常の活動で「あそこのお店のご主人はとっても優しいんだ」「おまけをしてくれるんだ」ということを調べます。ある文房具屋さんが表彰されたんですが、「文房具屋さんの商品がとても低い位置に展示してあるので、小

学生でも手にとってみることができる」「取れない時はすぐ取ってくれるし、この商品について聞いたらすぐ答えてくれる」といった視点がありました。それからある洋菓子屋さんも表彰されたんですが、その時は店のすぐ側にベンチや机があって、買ったものをすぐにそこで食べることができる、という視点でした。今はコンビニストアでも食べられるかもしれませんが、ドイツではあまりそういう場所がなく、そのお店が表彰されました。その表彰制度は毎年やっていますが、それは商店街やお店の人にとっても、素晴らしい名誉になるんですよ。大きな表彰状を貰って、それが店のガラスにベタッと貼ってあるわけなんですけど、そうすると「これはなぜこどもに選ばれた店なんだろう」「こどもに選ばれたオーナーなんだろう」と皆が気になり、新聞にも大きく取り上げられます。それが「商店街の活性化」や「こどもに優しいまち・お店・大人って何なんだろう」と考えるきっかけになっているんですよ。ですから、このこどもファンドを作った目的に「こどもに優しいまちを作ろう」「こども目線のまちを作っていこう」「こどもが楽しく生き生き幸せに暮らせるまちを作ろう」という事がありますので、その目標に向かって一歩進んだ、それが他のグループにも波及したらきっと素晴らしいことになるんだろうなという、そういう学びがあったということが、本日の素晴らしい成果だと思いました。

皆さん長い間ご苦労様でした。どうもありがとうございました。

6 平成 29 年度高知市子どもまちづくり基金実績

こうちこどもファンドは、平成 24 年度に創設した「高知市子どもまちづくり基金」を原資に運営しております。制度を長期に渡り、継続していくためには、少しでも多くの企業や団体、市民の方から、こうちこどもファンド制度の趣旨に対してご賛同をいただき、寄附金という形でご支援をいただくことが必要です。未来のまちづくりを担う子どもたちを社会全体で支援し、その温かい支援や協力を子どもたちが感じながら活動していく中で、子どもたちは「夢の実現」だけではない、たくさんの学びや成長を得ることができると考えています。

平成 29 年度には、3 件の企業・団体・個人の方から 43,000 円のご寄附をいただきました。

こうちこどもファンド制度が、安定した運営をしていけるように、今後ともご支援をいただければ幸いです。

○平成 29 年度に寄附をいただいた方々

(企業・団体 様)

三愛石油カスタマーサービス株式会社 代表取締役 八田 聡子 様

株式会社 四国清掃工業 代表取締役 森国 勇 様

(個人 様)

久川 憲四郎 様

また、平成 27 年度から募金箱を設置しています。領収等の発行は行わず、こどもファンドを応援してくださる方からの善意の募金という形で運営しています。300 円以上の募金で、こどもファンドの特製バッジを差し上げています。

平成 29 年度は、14,003 円の募金をいただき、「高知市子どもまちづくり基金」に積立させていただきました。



7 今後に向けて

「こうちこどもファンド」は、子どもたちの「自分たちのまちを良くしたい」という想いを支援する制度で、子どもたちのまちづくりへの活動実施により、こどもにやさしいまちの実現や、高知の将来を支える人材づくりを目指しています。

平成30年度は、「こうちこどもファンド」がスタートして7年目を迎えます。

毎年子どもたちの意欲的なまちづくりの提案があることを嬉しく思う一方、応募団体の子どもたちやサポートする大人にとって、どのようにすれば応募しやすく、活用しやすい制度になるかを考えながら、まだまだ改善していく必要があります。

また、このこうちこどもファンドを知らない市民の方がまだまだいらっしゃいますので、より皆さんに知っていただくために広報手段も工夫していかななくてはなりません。そのために、活動意欲がある子どもたちの声を拾い、掘り起こし、応募に繋げていく仕組みを検討していき、もっとこの制度を周知していきたいと考えています。

子どもが申請し、審査をするのも子どもたちという「こうちこどもファンド」の仕組みは、全国でも先駆的な取り組みで、高知市のまちづくりに興味を持つ子どもたちを増やしていくきっかけの1つにできれば思っております。小さい頃から自分たちが住む地域のことに関心を持ち活動するが、大人になっても地域活動に参加することに繋がり、少しでもこのこうちこどもファンドが「地域活動の担い手不足」という課題解決につながる手段になればと考えています。

今後とも、「こうちこどもファンド」のご支援をよろしくお願いいたします。



資料編

- ・高知市子どもまちづくり基金条例
- ・高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱
- ・平成29年度活動発表会アンケート結果
- ・「こどもファンド通信」第22号（平成29年5月発行）
- ・「こどもファンド通信」第23号（平成29年8月発行）
- ・「こどもファンド通信」第24号（平成30年2月発行）
- ・平成30年度こうちこどもファンド助成事業募集チラシ
- ・第7期こども審査員募集チラシ

高知市子どもまちづくり基金条例

(平成 24 年 4 月 1 日条例第 23 号)

(設置)

第 1 条 子どもたちが主体となって取り組む子どもまちづくり活動を推進することにより、本市の将来を担う人材の育成を図るとともに、本市におけるまちづくり活動を活性化させるため、高知市子どもまちづくり基金（以下「基金」という。）を設置する。

(基金の積立て)

第 2 条 基金として積み立てる額は、一般会計歳入歳出予算で定める。

2 基金をより効果的に運用するため、基金の設置目的に沿う市民又は法人その他の団体の寄附金は、前項の積立額に充てることができる。

(管理)

第 3 条 基金に属する現金は、金融機関への預金その他最も確実かつ有利な方法により保管しなければならない。

2 基金に属する現金は、必要に応じ、最も確実かつ有利な有価証券に代えることができる。

(運用益金の処理)

第 4 条 基金の運用から生ずる収益（以下「運用益金」という。）は、一般会計歳入歳出予算に計上して、基金の設置目的を達成するために行う事業の経費に充てるものとする。

2 前項に定める事業の経費に充当したものを除き、運用益金は、一般会計歳入歳出予算に計上して、基金に積み立てる。

(処分)

第 5 条 市長は、基金の設置目的を達成するため必要があると認めるときは、一般会計歳入歳出予算の定めるところにより、基金の全部又は一部を処分することができる。

(繰替運用)

第 6 条 市長は、財政上必要があると認めるときは、確実な繰戻しの方法、期間及び利率を定めて、基金に属する現金を歳計現金に繰り替えて運用することができる。

(委任)

第 7 条 この条例の施行について必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。

高知市子どもまちづくり基金助成金交付要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、高知市子どもまちづくり基金条例（平成24年条例第23号）第1条に規定する基金の設置目的を達成するため、高知市子どもまちづくり基金助成金（以下「助成金」という。）を交付することについて、補助金等の交付に関する条例（昭和29年条例第19号）に定めるもののほか、必要な事項を定めるものとする。

(助成対象団体)

第2条 助成金の交付の対象となる団体（以下「助成対象団体」という。）は、次に掲げる要件のすべてを満たす団体とする。

- (1) 本市に在住又は通勤若しくは通学している18歳以下の子どもが3人以上いること。
- (2) 団体の責任者及び監査として、20歳以上の大人が2人以上いること。
- (3) 活動の目的が明らかであり、当該助成に係る事業を自主的に行えるものであること。
- (4) 複数の世帯で構成される団体であること。
- (5) 過去に、同一の事業についてこの要綱に基づく助成金の交付を3回以上受けていないこと。
- (6) 団体の運営に関する規約、会則等を定めており、適切な会計処理が行われていること。

2 前項の規定にかかわらず、助成対象団体が、高知市事業等からの暴力団の排除に関する規則（平成23年規則第28号。以下「規則」という。）第4条各号のいずれかに該当すると認める場合は、助成金の交付の対象としない。

(助成対象事業)

第3条 助成金の交付の対象となる事業（以下「助成対象事業」という。）は、本市内において、子どもが主体となって取り組むまちづくり活動に係る事業とする。

2 前項の規定にかかわらず、次に掲げる活動は助成対象事業としないものとする。

- (1) 営利を目的とする活動
- (2) 宗教的又は政治的な活動
- (3) 学校の授業の一環として行う活動

(助成対象経費)

第4条 助成金の交付の対象となる経費（以下「助成対象経費」という。）は、助成対象団体が行う助成対象事業に要する経費とする。

(助成金額)

第5条 助成金額は、助成対象経費の額を限度として予算の範囲内において、市長が認める額とする。

(助成金の交付申請)

第6条 助成対象団体は、助成金の交付を受けようとするときは、助成金交付申請書（様式第1号）に、必要書類を添えて、市長に申請しなければならない。

(助成金の交付決定)

第7条 市長は、前条の申請があったときは、その内容を審査し、助成金の交付の可否を決定し、適当と認めるときは助成金交付決定通知書（様式第2号）により、適当でないとき認めるときは所定の助成金交付却下通知書により当該申請をした助成対象団体に通知するものとする。

2 市長は、助成金の交付決定に際し、必要な条件を付することができる。

(交付申請の取下げ)

第8条 前条第1項の規定により助成金の「助成事業者」という。）は、その内容又付申請を取り下げようとするときは、当間以内に、その旨を所定の助成金交付申請のとする。

交付決定を受けた助成対象団体（以下はこれに付された条件に不服があり、交該交付決定の通知を受けた日から2週請取下届出書により市長に届け出るも

2 前項の規定による申請の取下げがあったときは、当該申請に係る助成金の交付決定はなかったものとみなす。

(変更承認等)

第9条 助成事業者は、助成金の交付決定を受けた事業（以下「助成事業」という。）について、事業内容を変更し、中止し、又は廃止しようとするときは、あらかじめ助成事業変更等承認申請書（様式第3号）により、市長に申請し、その承認を受けなければならない。

2 市長は、前項の申請があったときは、速やかにその内容を審査し、変更等の可否を決定し、所定の助成事業変更等承認（否認）通知書により当該申請をした助成事業者に通知するものとする。

（実績報告）

第10条 助成事業者は、助成事業が完了したときは、速やかに実績報告書（様式第4号）に、関係書類を添えて市長に報告しなければならない。

（助成金額の確定）

第11条 市長は、前条の報告があったときは、速やかにその内容を審査し、助成事業の成果が助成金の交付決定の内容及びこれに付した条件に適合すると認めたときは、交付すべき助成金額を確定し、助成金額確定通知書（様式第5号）により助成事業者に通知するものとする。

（助成金の交付請求及び交付）

第12条 助成事業者は、前条に規定する助成金額の確定通知を受けたときは、助成金交付請求書（様式第6号）により市長に助成金の交付を請求するものとする。

2 市長は、前項の請求があったときは、速やかにその内容を審査し、適当と認めたときは、助成金を交付するものとする。

（助成金の概算払）

第13条 市長は、助成事業について必要があると認めるときは、助成金の概算払をすることができる。

2 助成事業者は、概算払を受けようとするときは、助成金概算払請求書（様式第7号）により、市長に請求しなければならない。

（助成金の交付決定の取消し）

第14条 市長は、助成事業者が次の各号のいずれかに該当したときは、助成金の交付決定を取り消すことができる。

- (1) 偽りその他不正の手段により助成金の交付を受けたとき。
- (2) 規則第4条各号のいずれかに該当することとなったとき。
- (3) 助成金を助成事業の目的以外に使用したとき。
- (4) 助成事業の実施方法が不相当と認められるとき。
- (5) 助成事業を中止又は廃止したとき。
- (6) 前各号に掲げるもののほか、助成金の交付決定の内容及びこれに付した条件その他この要綱に基づく命令に違反したとき。

2 前項の規定は、助成事業について交付すべき助成金額の確定があった後においても適用があるものとする。

3 市長は、第1項の規定による取消しをしたときは、所定の助成金交付決定取消通知書により、助成事業者に通知するものとする。

（助成金の返還）

第15条 市長は、前条第1項の規定に基づき助成金の交付決定を取り消した場合において、助成事業の当該取消しに係る部分に関し、既に助成金を交付しているときは、期限を定めて、その返還を命じなければならない。

2 市長は、助成事業者に交付すべき助成金額を確定した場合において、既にその額を超える助成金を交付しているときは、期限を定めて、当該確定した助成金との差額の返還を命じなければならない。

（調査等）

第16条 市長は、助成事業の適正な執行を確保するために必要な限度において、助成事業者に対し、書類の提出若しくは報告を求め、又は必要な調査をすることができる。

（整備保管）

第17条 助成事業者は、助成事業に係る帳簿及び関係書類を整備するとともに、助成事業の完了した日の属する年度の翌年度から起算して5年間保管しなければならない。

（その他）

第18条 この要綱に定めるもののほか、助成金の交付に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

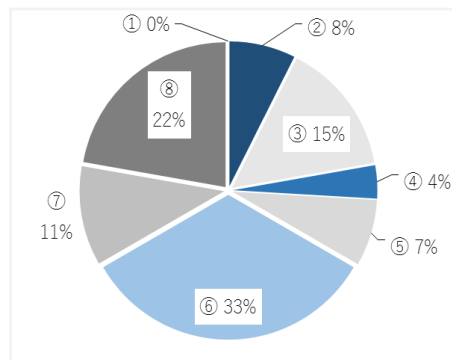
この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

平成 29 年度活動発表会 【一般来場者アンケート結果】

アンケート回答数：23 人

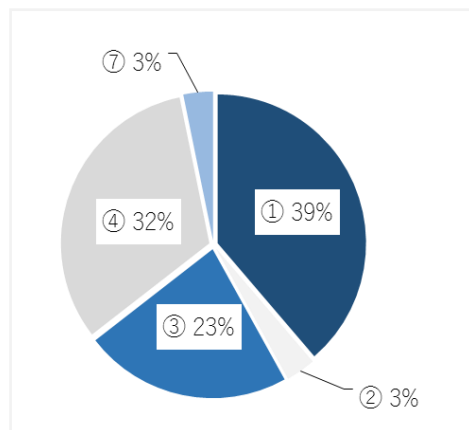
問 1 活動発表会について何で（どこで）知りましたか。（複数回答）

- ① 市ホームページ
- ② あかるいまち
- ③ こどもファンド通信
- ④ フェイスブック
- ⑤ 活動団体、審査員からのお知らせ
- ⑥ 学校からのお知らせ
- ⑦ 知人・友人からの紹介
- ⑧ その他



問 2 活動発表会に来た目的は何ですか。（複数回答）

- ① 応募した子どもの関係者であるため
- ② 子ども審査員の関係者であるため
- ③ 子どもの活動のことに興味があるため
- ④ まちづくりに興味があるため
- ⑤ 報道・取材のため
- ⑥ 研究のため
- ⑦ その他



問 3 活動発表会についてどのような印象を持ちましたか。また、進め方についてご意見をお聞かせください。

- ・どのグループも、地域のためにさまざまな活動をしてきていて、すごいと思いました。進め方もスムーズで良いと思いました。
- ・自分より年下の子どもが自分の言葉で質疑応答している姿を見て、こどもファンドの活動を 1 年間真剣に行っていることが伝わりました。司会進行を子どもがやってみてもおもしろいと思いました。
- ・相手の団体の良いところを発見して、自分たちの活動にも取り入れようという姿勢は、なかなか大人でもできないことなので、子どもたちの柔軟さに感銘を受けました。
- ・集合してから発表までの間が長い（各チーム、早くに準備が終わっていた様にみえました）
- ・5分で、この一年間の体験や成果をまとめ発表するのもすごい。感心しました。
- ・発表資料に大人が作業を行っていると思う部分も多くあったように感じました。子どもが作成し発表を行うようにすれば、もっとよくなる（子供中心になる）のではと思います。

- ・食とのかかわりや熊本まで視察に行ったケースなど、大人も交えての展開がすごいです。学校教育の中だけではできない、でも何より学びになっている活動だと思います。

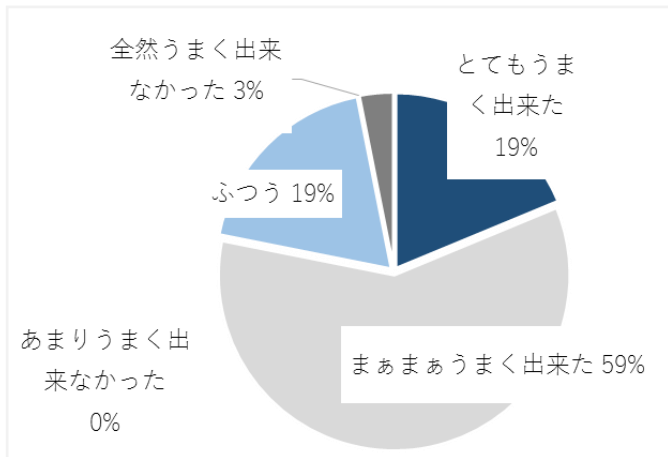
問4 こうちこどもファンド制度について、ご意見をお聞かせください。

- ・高知市の大人、子供が自分たちの住んでいるまちをより良くしていくためにどうしたらいいか考える良い制度だと思う。
- ・これからも続いて、まちを愛せる人材を育てていければと思います！
- ・学校教育との境目や大人が主導しすぎたりというグループもあるように思うので、もっと「にじいろ発見隊」のようなグループが増えれば、より素敵だなと思います。
- ・こどもファンドのパンフレットが昨年と比べて驚くほど見易くなっていました！
- ・子供の参加することをきっかけに始めて知った制度でした。また来年も見にきたいと思います。
- ・「こども審査員」という呼び名のせいか、こども審査員の応募が少ないのが気になります。名称変更してみてはどうでしょうか。
- ・「こどもたち自身の考えで一年間活動に取り組み、それを市が助け支える」という制度が素晴らしいと思います。今後の中・高・大学の学習スタイルの変化が考えられる中、この制度はすいぶん前を進んでいるのではないかなと思いました。
- ・にじいろ発見隊の活動は大人が関与している部分が少なく感じ、低コストで地図作成～配布まで行った点はビジネスとしても非常に評価できるのではと思います。また、こどもファンドの制度自体の周知を、市がもっと積極的に行うべきだと思います。
- ・どのグループも自分達で考えどの様な活動がよいのか工夫できていたと思います。地域の方とつながりを持つことができ良いと思いました。
- ・市から拠出されたお金をあまり使わず、寄付金から助成しているという話を聞いてびっくりしました。市民の応援があるところもすばらしいですね。
- ・子ども達の成長につながる活動だと思いますので、今後も続けていただきたいと思います。
- ・「参加団体がもう少し多ければ良いのに」と思いました。

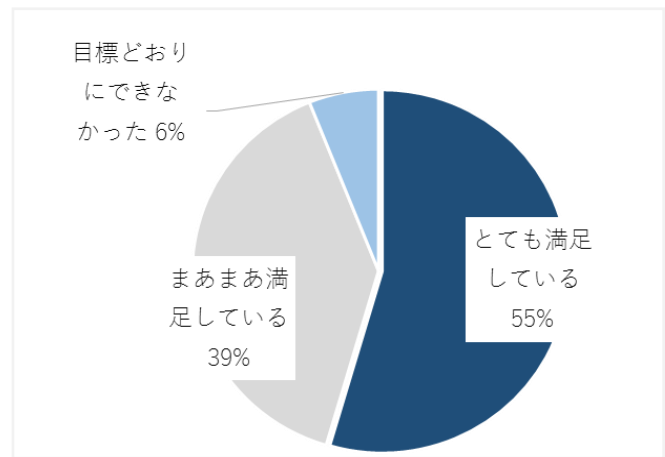
平成 29 年度活動発表会 【発表団体向けアンケート結果（対象：子ども）】

アンケート回答数：33 人

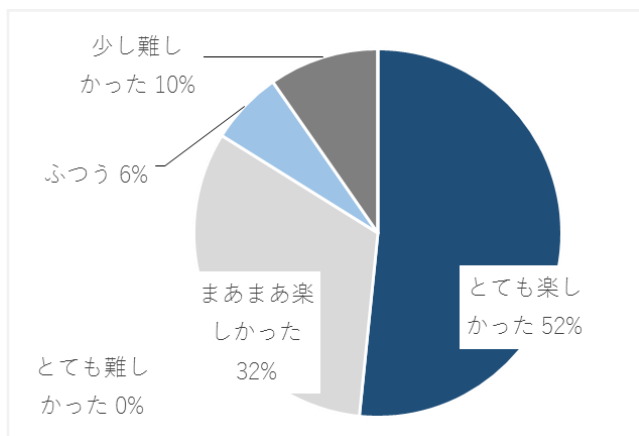
問 1 発表はうまくできましたか。



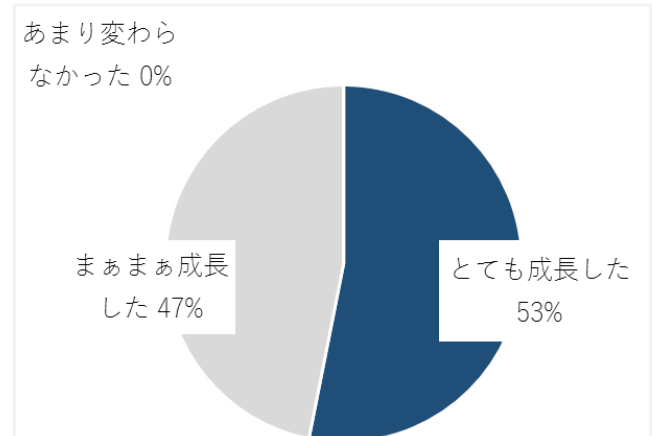
問 2 活動を終えた今の気持ちにあてはまるものは。



問 3 グループワークをやってみて、どう感じましたか？



問 4 活動をとおして自分が成長したと感じますか。



問 5 こどもファンドで活動した感想や、今日の発表会の感想を自由に書いてください。

- ・思った以上に質問に答えることができました。眠たかったです。
- ・それぞれの団体が工夫をしていて、いい発表だったと思う。
- ・他の団体のユニークな発表方法に刺激を受けました。
- ・一つのチームでできることには限りがあると感じました。「一つのチームが5つの施設に

伝える」、そして「5つの施設が様々な家庭に伝えていく」、これも交流の一つだと思います。そして、そういった活動を伝えていく場所を増やしていきたいと思いました。今日はこういう機会を設けていただき、ありがとうございました。

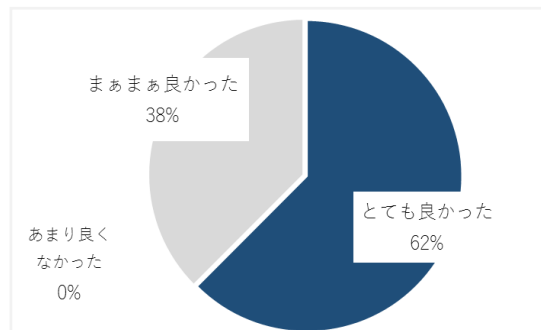
- ・今までにないグループワークが、いろんなグループのアイデアをとり入れる事ができるので心に残っています。
- ・他の団体さんの発表を聞いて、自分たちにも取り入れることができそうなことがたくさんあってびっくりした。積極的に取り入れていきたい。
- ・楽しかったけど話にのめり込みすぎて内容がそれたりしたけど自分たちの学校で生かせるような意見も出たのでよかった。少しでも学校が良くなればいいと思います。
- ・アドバイス等をたくさんいただき、今後の活動に活かしていきたいと思います。
- ・今回はどの賞ももらえなくて少し悔しいです。
- ・他の団体が行っていることや、自分たちに対してのアドバイスを聞けてすごく良い時間になりました。
- ・少し心配した所もあったけど、賞をもらえてよかったし、うまくできて良かったです。
- ・自分の思うように行かなくて大変な時もあったけど、成功できた時はうれしかった。
- ・自分達が地域のために行動できるきっかけなどになった。
- ・ドキドキした。
- ・こどもファンドで活動する中で、チームとして活動する大切さや1人1人が責任を持って行動しないといけないということを勉強しました。
- ・とても大変だったけど、とてもやりがいのある活動でした。

平成 29 年度活動審査会【発表団体向けアンケート（対象：大人サポーター）】

アンケート回答数：8人

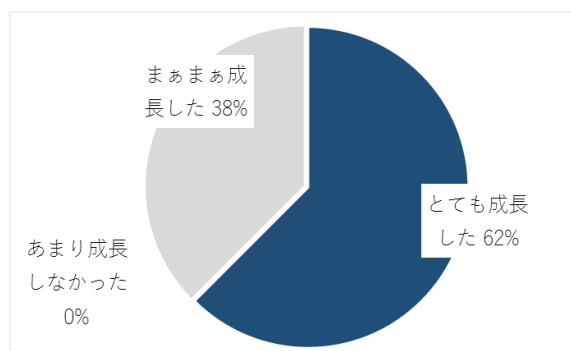
問1 子どもたちの発表はどうでしたか。

- ・小中高と年齢差があり、発表も色々と大変なことがあった。
- ・交流しながら話し合うところが良いです。自分達のプロジェクトにも活かせると思う
- ・皆の成果や考えを多くの人と共有することができる進行だと感じた。間に大人（畠中さんなどのプロ）を挟むことで、皆が整理しながら取り組むことができた。
- ・お互いの活動内容について考えられたことや、これからの活動に向けての見通しが持てたことが、とても良かった。
- ・交流タイムで、他のグループへの質問付箋をそれぞれのグループに渡した後に休憩を入れ、その後発表を行なうと、質問されたグループはもう少し細かく丁寧に説明ができたと思う。
- ・グループワーク用にふせんを書きながら発表を聞く形になったので、少しせわしなく感じた。
- ・グループワークの内容はとても良かった。
- ・各グループが自分達の言葉で発表していたので、楽しく聞くことができた。
- ・年代別の発表の仕方があり、それを聞くことができ、良かったと思う。良い刺激となった。



問2 今回の活動をとらして子どもたちが成長したと感じますか。

- ・こどもたちなりに色々なアイデアが出て楽しくでき、成長も感じた。
- ・人前で喋る、行動することができる生徒が増えた。
- ・思ってもいない生徒から、自分から「これをやりたい」といった言葉が出てくる場面があった。
- ・「やることや機会があれば成長のきっかけになる」ということが、結果としてよくみることができた。
- ・自分達でよく動けたと思う。大人はサポートするだけでよかったところが、子どもたちにとっては自信になったと思う。
- ・活動の最後まで諦めずにできたことによって、子どもたちも責任感が持てたと思う。
- ・いろいろな機会があれば、それを体験することで、少しずつ成長があると思うので、その機会となってよかった。
- ・たくさんの経験のおかげで、活動に対する積極性や自主性が育ってきたと思う。
- ・1年間は長いようで短かった。こどもたちは正直大変だったと思うが、その分達成感があったと思う。
- ・自分の考えを持ち、工夫して活動を進めることができた。チャレンジしたいことが増えた。



問3 こうちこどもファンドの制度についてご自由にご意見をお聞かせください。

- ・多くのこどもたちにチャンスを与える、よい企画だと思います。
- ・こどもにすべて任すというスタンスが審査会にも報告会にも見え、こどもたちも自分が主役になったということをしっかり認識することができた。
- ・寄附によってこどもたちの活動を支援して下さるのは、本当に素晴らしい制度だと思う。
- ・こどもファンドを知っている人は、まだまだ少ないと思う。もう少し知名度が上がれば良いと思う。
- ・「こどもファンド」を聞いたことはあるが、どうしたらよいかわからないという声をよく聞きます。応募に向けて一步を踏み出せるような手助けが必要で、それをこどもファンドを経験した子どもや大人が担うことができれば良いと思う。
- ・今のままで、続けて行ってほしい。

6月11日(日)こども審査員 事前研修会・事前審査会を開催します



今年度は、小学4年生から高校3年生までの合計9名が、「こども審査員」に就任し、大人審査員と一緒に、6月18日(日)に開催する公開審査会において、助成団体を決める審査を行います。
審査会にのぞむ前に、「こども審査員」として、自分たちが審査をする際に何を重要と考えるのか(審査項目)を、ワークショップ形式でみんなで話し合って決めます。また、審査項目の決定後は、実際に模擬審査を行い、審査会のプレ体験をします。研修会の後には、大人審査員と一緒に、今年の応募団体に関する情報を共有する、事前審査会を行います(写真は昨年度の様子です)。

事前研修会

*「こどもファンド」の制度や趣旨の学び、審査項目の決定

模擬審査

*翌週に迫った公開審査会のプレ体験です

事前審査会

*こども審査員と大人審査員と一緒に応募団体に関する情報を共有する時間です

こどもファンドアドバイザーをご活用ください!



こどもファンドアドバイザー
畠中 洋行さん



ご寄附をいただき、ありがとうございます

☆平成28年度にご寄附をいただいた方々☆

《企業・団体 様》

- ★ 三菱石油カスタマーサービス株式会社
代表取締役 八田 聡子 様
- ★ 株式会社 四国清掃工業
代表取締役 森国 勇 様
- ★ 有限会社 大石電機
代表取締役 大石 典明 様
- ★ 太平産業 株式会社
代表取締役 中澤 末隆 様

《個人 様》

- ★ 久川 憲四郎 様

27年度以前にご寄附をいただいた皆様は、地域コミュニティ推進課のホームページに掲載しております。

皆様の善意をお寄せください

子どもたちへの応援の気持ちを、ぜひ寄附としてお寄せください。

寄附の手続きは簡単です。下記までお気軽にご連絡ください。手続き等は地域コミュニティ推進課のホームページでも確認いただけます。また、寄附金については、税制上の優遇措置があります。

【お問い合わせ先】
高知市地域コミュニティ推進課 (TEL/088-823-9080)

【発行元】
高知市地域コミュニティ推進課
高知市鷹匠町2丁目1-43
TEL: 088-823-9080

★フェイスブックもやっています!★

高知市役所ホームページのトップ画面にある、こちらのバナーからご覧いただけます。⇒



第22号
(平成29年5月)

こうちこどもファンド 通信

編集・発行: 高知市地域コミュニティ推進課 (TEL/088-823-9080)



6月18日(日)公開審査会を開催します

平成29年度の助成団体を決める『こうちこどもファンド公開審査会』を開催します。審査は、応募グループの子どもたちがプレゼンテーションを受けて、公募等により選出された、小学生・中学生及び高校生合計9名のこども審査員と7名の大人審査員が一緒に行い、審査員の協議も、同じ会場で“公開”で行います。応募グループの子どもたちは、「自分たちの住むまちを良くしていきたい!」と真剣に審査会に挑んでいます。公開審査会は、どなたでも自由にご覧いただけますので、会場へぜひ足をお運びいただき、そんな子どもたちを応援してあげてください。

STEP1 公開プレゼンテーション

応募グループの子どもたちが、こども審査員・大人審査員に対し、3分以内で、自分たちの活動目的や具体的な活動内容について説明(プレゼンテーション)します。

STEP2 こども審査員の質疑

発表内容について、こども審査員と応募グループの子どもたちとの間で、5分間の質疑応答が行われます。

STEP3 助成グループの決定

助成の可否について、こども審査員が判断を行います。こども審査員9名の過半数(5名以上)の推薦を得たグループに、助成が決定します。

平成29年度助成応募グループ(予定)

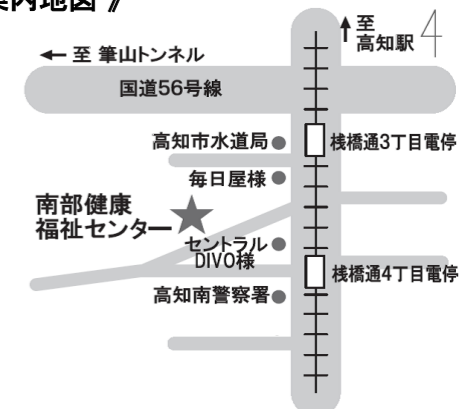
団体名	活動テーマ
太平洋学園コミュニティ協力隊	学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ～被災地から学ぶ防災・被災の対策～
一宮家おもてなし隊	一宮家はひとつの大家族やき!!
にじいろ発見隊	こども目線でやさしいまちをつくる
小高坂小学校実行委員会	あたたかい笑顔があふれる小高坂地区
旭地区防災食プロジェクト	地いきのみんなの食事を守るんジャー
南海ふれあい応援隊	ふれあいで地域を元気にしよう
高知市立久重小学校6年生	国際色豊かで災害に負けない久重地区を作ろう

「平成29年度公開審査会」

【日時】
平成29年6月18日(日)13:30~17:00
※時間は目安です。進行状況により多少前後する場合があります。

【会場】
高知市南部健康福祉センター 2階 大ホール
(高知市百石町3丁目1-30)
下の地図を参照してください
※駐車スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用の上、お越しください。

《会場案内地図》



平成29年3月19日(日)13時30分から、高知市南部健康福祉センター2階大ホールにて、平成28年度に助成を受けた団体の活動発表会を開催しました。
当日は発表団体を含め、約70名の参加者が、活動を終え一回り成長した子どもたちの発表に、感心しながら聞き入っていました。

高知市立久重小学校 6年生

～国際色豊かで災害に負けない久重地区を作ろう～

ロングライフとフレンドリーレストランのチームに別れて、防災と国際交流をテーマに活動してきました。防災食品の中から地域に備蓄する食品を決めるために試食会を開いたり、国際交流をはかるために、市内の外国人を久重地区に招き、各国の食品や文化などを教えもらう交流会を開催したりしました。試食会では、自分たちでお湯を注いで作り方も紹介しました。また、国際交流会では、自分たちも英語で会話をして国際交流を地域に広めました。



潮江中防災プロジェクトチーム

～防災学習の取り組みと地域防災への啓発・貢献～

非常持出袋の中身の学習や、地域の方への防災アンケート、防災避難所カルタでの交流などを通して、地域の防災意識向上に向けて活動してきました。また、地域の南海大地震体験者に話を聞いた内容や、アンケート集計結果を地域に知らせることで、地域との繋がりを作り、今後訪れる大地震のために備える大切さを伝えてきました。



Nankai Survival Project(NSP)実行委員会

～まもれ高知、自らの命を守り 我らの地域を救う～



活動3年目のグループで助成が今回で最後になります。防災をさらに地域に広める活動を考え、校区一斉避難訓練や防災フェアの企画を行ってきました。さらに、「俄」(にわか)という寸劇に防災を交えて、地域でたくさん披露してきました。
この活動や内容や発表に工夫がたくさんあったため、審査員が決めるベストピカッと賞を受賞しました。活動は、助成を終えた次年度以降も継続していく予定です。

チーム龍馬

～メディアを活用したボランティア活動の発信～



ボランティアのテーマに、横浜中の活動などをもとに、「龍馬のボランティアへの八策」、「城西龍馬新聞ボランティア特集号」を作成し、配布しました。新聞には、城西中学校で行っているボランティアや防災訓練の内容、八策の作成過程について書いています。これを龍馬の誕生祭などで配布し、発表を行いました。

おおつつ子

～地域へと笑顔をつなげおおつつ子～

地域にアルミ缶回収BOXを設置し、集めたアルミ缶をお金に交換して、地域のグループホームに車イスを寄贈しました。その他、Tシャツを作成し、地域のお祭りの参加、炊き出し訓練を企画し、活動をPRしました。発表のプレゼンテーションが評価され、「ベストパフォーマンス賞」を受賞しました。



ロサンゼルス日系四世と

バスケットボールを通じて交流するチーム

～バスケットボールと日本文化を楽しみながら交流する～

ロサンゼルスバスケットボールチームと試合を行い、ホームステイをして交流を深めました。その他、日本や高知の文化を知ってもらうための文化活動や、記念品交換を行いました。その後もメールで交流を続け、来年はアメリカへ行く計画も立てています。



一宮家おもてなし隊

～一宮家はひとつの大家族やき！！～ ☆ベストこどもファンド賞☆



地域との絆を深めるために2年間活動してきました。小学校でのあいさつ運動や高齢者との交流や施設の清掃、地域のお祭りの手伝いなど、たくさん活動してきました。今年度は新たに防災について学習し、簡易トイレ作りや熊本地震の募金活動なども行いました。

☆☆審査員と助成団体の交流タイム☆☆

各団体の発表や活動をまとめた模造紙を見て、審査員と団体とで質問や意見交換をしました。会場の皆がふせんに質問や感想を書いて、各団体のボードへ貼っていきます。それを審査員のみんなで発表をしました。



最後に全員で記念撮影♪



参加団体や会場に来られた皆さんの投票で選ぶ「ベストパフォーマンス賞」や、審査員が選ぶ「ベストピカッと賞」、「ベストこどもファンド賞」それぞれについて、表彰を行いました！

- **ベストパフォーマンス賞**：活動内容や本日のプレゼンテーションが一番よかったというグループ
- **ベストピカッと賞**：活動の進め方や活動内容について、工夫や面白さが感じられたグループ
- **ベストこどもファンド賞**：活動発表会でのプレゼンテーション、活動内容などすべてあわせて一番よかったと思うグループ

【ベストパフォーマンス賞】
★おおつつ子★



【ベストピカッと賞】
★NSP実行委員会★



【ベストこどもファンド賞】
★一宮家おもてなし隊★



こうちこどもファンドとは？



子どもたちが自分たちのアイデアで、住んでいる地域などを良くする活動を応援する制度です。活動の必要経費に対して上限20万円の助成や、活動に進めていく上のサポートを行います♪

- 応募資格①18才以下の3人以上のグループ
②20才以上のサポートする大人がいること
③高知市在住か在学の複数世帯グループ

誰かが喜んでくれるような活動を考えて実践し、最後に活動発表会で活動報告を行います☆

助成の決定は、子どもたちで活動内容の発表をした後、公開の場でいきます。審査には小学4年～高校3年の子どもたち「子ども審査員」も加わります★



こどもファンドアドバイザーをご活用ください！

何かをしたいと思っても、1から考えるのは難しい！メンバー集め、計画など・・・そんな時は、アドバイザーがアイデアの形作りをします！

こどもファンドアドバイザーの活用は、大きく分けて3段階あります。

1つ目は、ファンドへの応募を考えた時、どんなことをしたらいいかな？何から始めれば？といった相談に対し、一緒に考えを整理するサポート。

2つ目は、応募した後、公開審査会において、どんな風にみんなの前で発表したらいいかを検討する際のサポート。

3つ目は、実際に助成を受けて活動に取り組む中で、いろいろな悩みが出てきた際に、どうしたらいいか考える時のサポートを行います。

助成グループの皆さんがサポートを希望する場合はもちろん、「来年度はこうちこどもファンドに応募してみたいなあ」と考えている方もお気軽に地域コミュニティ推進課にご連絡ください。



こどもファンド
アドバイザー
畠中 洋行さん



※派遣費用は無料です。ご希望の場所に出向きますので、積極的にアドバイザーをご活用ください！

ご寄附をありがとうございました☆

- 《企業・団体様》 ※平成28年4月1日以降
★三愛石油カスタマーサービス株式会社 代表取締役 八田 聡子様
★株式会社 四国清掃工業 代表取締役 森国 勇 様
★有限会社 大石電機 大石 典明 様
★太平産業 株式会社 中澤 末隆 様

- 《個人様》
★久川 憲四郎 様
- ★お断り★
平成27年度までにご寄附をいただいた皆様は、地域コミュニティ推進課のホームページに掲載しております。

皆様の善意をお寄せください

「こうちこどもファンド」は、この事業にご賛同いただける個人や企業の皆さまからのご寄附によって支えられています。未来のまちづくりを支える子どもたちの想いを、市民・企業など社会全体で応援しませんか。子どもたちへの応援の気持ちを、ぜひ寄附としてお寄せください。

寄附の手続きは簡単です。下記までお気軽にご連絡ください。手続き等は地域コミュニティ推進課のホームページでもご確認いただけます。

【お問い合わせ先】高知市地域コミュニティ推進課
(TEL/088-823-9080)

Facebookもよろしくお祈いします！

「こうちこどもファンド」は、SNS（ソーシャルネットワークサービス）のFacebookを活用して、助成団体の活動報告等、こうちこどもファンドに関する情報提供をしています。ぜひ、「こうちこどもファンド」のFacebookをチェックして、「いいね！」をお願いします。

高知市役所ホームページのトップ画面にある、こちらのバナーからもご覧いただけます。



【発行元】
高知市地域コミュニティ推進課
高知市鷹匠町2丁目1-43
TEL：088-823-9080
E-mail：kodomofund@city.kochi.lg.jp
URL：http://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/21/

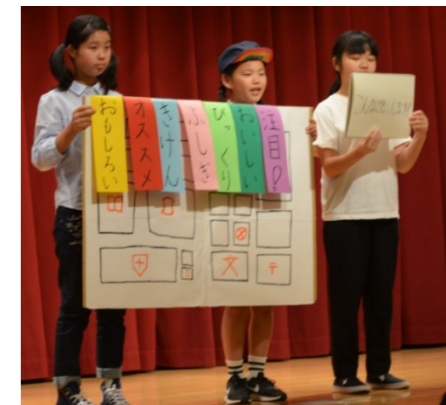
第23号
(平成29年8月)

こうちこどもファンド 通信

編集・発行：高知市地域コミュニティ推進課 (TEL/823-9080)

平成29年度公開審査会を開催しました！

6月18日(日)に、平成29年度の助成団体を決める公開審査会を開催し、応募全6団体の助成が決定しました。今年は小学生から高校生までのいろんな活動の提案があり、一生懸命発表しました。審査を行った子どもたちも、1週間前にみんなで考えた審査ポイントをもとに、助成するかしないかを話し合いました。



みんなあ、こどもファンドで活躍してみん？

子どもたちが、自分たちのアイデアでより魅力的なまちを目指して行う活動を応援する「こうちこどもファンド」。

より良いまちづくりを、子どもたちが考え提案し、子どもたちが審査します。地域のことを考え、みんなで活動する経験は、楽しいことや勉強になることがたくさんあります！！「少し興味がある」「何かやってみたい」「審査員をしたい」などのご相談をいつでも受けています。

来年度に向けて、今から何か考えてみませんか♪♪

ぜひ、お気軽に地域コミュニティ推進課にご連絡ください。

【お問い合わせ先】高知市地域コミュニティ推進課
(TEL/088-823-9080)



☆平成29年度助成団体決定☆



団体名	テーマ	内容	助成金額
1 南海ふれあい応援隊	ふれあいで地域を元気にしよう	ふれあい教室, ふれあい食堂の開催	200,000円
2 旭地区防災食プロジェクト	地いきのみんなの食事を守るんジャー	防災かまどベンチの製作 さつまいもの栽培	200,000円
3 にじいろ発見隊	子ども目線でやさしいまちをつくる	はりまや橋小学校区のまち歩き, マップ作成	200,000円
4 太平洋学園コミュニティ協力隊	学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ～被災地から学ぶ防災・被災の対策～	熊本地震被災地現地視察 学内・地域での防災啓発活動	176,300円
5 高知市立久重小学校6年生	国際色豊かで災害に負けない久重地区を作ろう	国際食文化・遊び交流会 防災食品試食会開催 逃げ地図作り	200,000円
6 一宮家おもてなし隊	一宮家はひとつの大家族やき!!	あいさつ運動 高齢者施設訪問・清掃 防災グッズ, 道徳カルタ作り	200,000円

助成団体の活動が始まりました!

高知市立久重小学校6年生

地域の方と一緒に、災害が起こった時に避難する経路を考えて「逃げ地図」を作ります。その前に、作り方を教えてもらい、実際に大きい地図の道に色を塗って、自宅からの避難場所までの経路や時間を測ってみて、みんなで情報共有しました。



一宮家おもてなし隊

地域の祭りの手伝いや公園の清掃を行いました。また、防災グッズ作成や、高齢者施設そうじ手伝い、認知症講習会への参加、8月末には、大島青松園へ視察に行く予定です。

旭地区防災食プロジェクト

さつまいもの苗を植えました。草刈りから始まり、畑づくりなど地域の方や大学生と一緒に行いました。また、旭小で行われた旭なつまつりで、活動のPRもしました。



にじいろ発見隊

帽子を作成し、実際にまち歩きを行っています。学校周辺のいろんな情報を集めて、地図にまとめていきます。学校にポスターを貼って、一緒に活動してくれるメンバーも募集中です。



南海ふれあい応援隊

大人の講師を招いてふれあい教室を開催します。現在12教室を予定しており、夏休みなどに、多くの参加者に来てもらえるよう呼びかけやチラシの配布をしています。8月は1日にちらし寿司作り、3日にサッカーと昔遊び教室、8日に英語教室、19日にミニクルーズ、20日にバルーンアート教室をします。9月10日にはやさい作り教室を予定しています。詳細は地域コミュニティ推進課または南海中学校にお問い合わせください。

太平洋学園コミュニティ協力隊

近くの小学校で行われた防災祭りに参加し、各ブースの手伝いを行いました。8月末には熊本に視察に行く予定です。



★公開審査会の様子★

★南海ふれあい応援隊★



南海中学校のメンバーで、地域のつながりを深めるために、大人の講師を招いてふれあい教室や、朝食をみんなで食べるふれあい食堂を開催します。

★にじいろ発見隊★



はりまや橋小学校6年生で結成されたグループで、小学校の周りを歩いて探検し、マップを作ります。ダンボールを使った手作りのマップを見せて発表しました。

★旭地区防災食プロジェクト★



旭小学校の近くで畑を耕して、防災食としてさつまいもの栽培をします。その他、地域とのつながりを深め、憩いの場としても活用できるように、地域の方と一緒に防災かまどベンチなどを作ります。

★太平洋学園コミュニティ協力隊★



学校周辺や高知駅で防災啓発活動を行います。熊本地震の被災地にも視察に行っており、実際に避難する時に必要なことを学習して皆に伝えていきます。

★高知市立久重小学校6年生★



昨年に引き続き2年目の応募で、国際交流と防災の活動を行います。国際交流では、久重地区の食材や昔遊びを調べて、それぞれの文化を紹介し合う会を開催します。防災では、防災食の試食会に加えて、久重地区の逃げ地図作りを地域の方と一緒にいきます。

★一宮家おもてなし隊★



3年目の応募で、今年度は今までの活動の集大成として活動していきます。あいさつ運動や地域のお祭りの手伝い、高齢者とのふれあいや清掃手伝い、防災グッズ作りなどを行います。今年にはそれに加えて道徳カルタ作りをするために、心の教育やハンセン病療養所の視察を行って、道徳についても学び、地域に伝えていきます。

公開協議
子ども審査員で、「いいね!」「少し質問がある」「もうちょっと!」の一次判断をした後、各団体に確認したいことなどを質問しました。

★質問をする子ども審査員★



♪ まちの誰かが喜ぶような活動を募集しています♪

- 応募資格 ●
- ① 高知市に住んでいる、または通学している18歳以下の子どもが3人以上いること
 - ② サポートする20歳以上の大人が2人以上いること
 - ③ 家族以外のメンバーで成り立っていること
- 活動期間 ● 平成30年7月1日～平成31年2月28日
- 助成金額 ● 活動に必要な経費 上限20万円
- ※ 申請書類は事務局までお問い合わせください。
- ※ 締切 平成30年5月10日(木)

応募団体には、6月17日(日)に開催予定の公開審査会で、行いたい活動について、子どもたちから発表していただきます。

☆ 応募説明会 ☆

[日時]
平成30年4月15日(日) 午前10時から

[場所]
高知市市民活動サポートセンター会議室
(高知市鷹匠町2丁目1-43
高知市たかじょう庁舎2階)

参加ご希望の方は、4月13日(金)までに事務局までご連絡ください。

☆ ともファンドアドバイザーがお手伝いします ☆



子どもたちの活動をサポートする「ともファンドアドバイザー」。助成が決まった団体の相談役としてだけでなく、「やりたい気持ちはあるけど、どんな活動にすればいいか、わからない」「みんなの意見をまとめた方がいい方法がわからない」「来年度の応募に向けて活動の磨きあげをしたい」など、子どもたちと一緒に考えアドバイザーします。

いつでもお気軽に事務局までご相談ください☆



ともファンドアドバイザー
畠中 洋行さん



★ フェイスブックもよろしくお祈いします! ★

子どもたちの活動やともファンドのお知らせを配信しています!
ぜひ、いいね! やシェアをお願いします♪



高知市ホームページのトップ画面にある、こちらのバナーからご覧いただけます。⇒



☆ ご寄附をありがとうございました ☆

- < 企業・団体様 >
- ★ 三愛石油カスタマーサービス株式会社
代表取締役 八田聡子 様
 - ★ 有限会社 大石電機 代表取締役 大石典明 様
 - ★ 株式会社 四国清掃工業 代表取締役 森国勇 様
 - ★ 太平産業 株式会社 代表取締役 中澤末隆 様
- < 個人様 >
- ★ 久川 憲四郎 様

★ お断り ★
27年度以前にご寄附をいただいた皆様は、地域コミュニティ推進課ホームページに掲載しております。

皆様の善意をお寄せください

子どもたちへの応援の気持ちを、ぜひ寄附としてお寄せください。

寄附の手続きは簡単です。下記までお気軽にご連絡ください。手続き等は地域コミュニティ推進課のホームページでもご確認いただけます。
また、寄附金については、税制上の優遇措置があります。

【発行元・事務局・お問い合わせ】

高知市地域コミュニティ推進課
高知市鷹匠町2丁目1-43
TEL: 088-823-9080
E-mail: kodomofund@city.kochi.lg.jp
URL: http://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/21/

こうちこどもファンド 通信

第24号
(平成30年2月)

編集・発行: 高知市地域コミュニティ推進課 (TEL/088-823-9080)



平成29年度活動発表会を開催します!

「こうちこどもファンド」の助成を受けて活動した子どもたちが、今年度行ってきた活動を発表する活動発表会を開催します。当日は、それぞれのグループの活動を振り返る交流会や、活動団体に対する表彰を行います。発表会は、どなたでも自由にご覧いただけます。

また、発表会開催前には「こうちこどもファンド」の制度内容や活動事例の紹介などを説明する時間を設けます。ぜひ、会場へ足をお運びいただき、子どもたちの発表や交流とあわせてご参加ください!

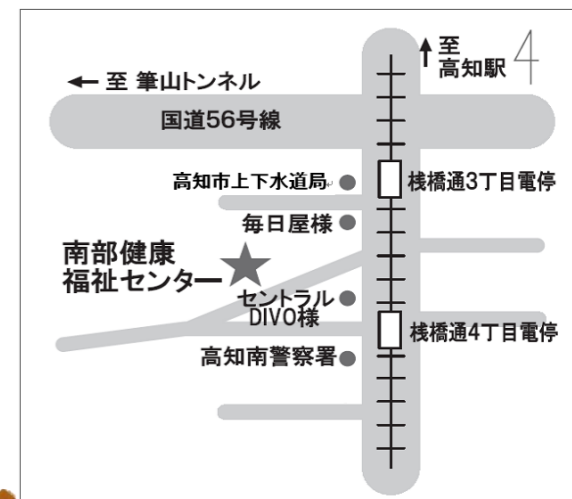


「平成29年度活動発表会」

【日時】 平成30年 3月18日 (日)
12:30~13:00(制度説明)
13:30~17:00(発表会)
※ 説明会参加希望の方は16日(金)までにご連絡ください。

【会場】→
高知市南部健康福祉センター 2階 大ホール
(高知市百石町3丁目1-30)
※ 駐車スペースに限りがありますので、なるべく公共交通機関をご利用の上、お越しください。

〈会場案内図〉



「第7期子ども審査員」を募集しています!! <応募締切>2月28日(水)

こうちこどもファンドでは、助成団体を決める審査に子どもの視点を取り入れるため、「子ども審査員」を設置しています。平成30年度の応募団体を審査する「子ども審査員」を募集しています。

☆ 対象者 ☆
高知市内に在住または在学の
小学4年生~高校3年生(平成30年4月1日時点)

市内の小中高校に応募申請書を配布しています。選考は、申請書の記載内容と大人審査員による面接で行います。



★ 子ども審査員にお願いする内容

応募してきた子どもたちの活動に助成するかどうか、公開審査会(平成30年6月17日(日)開催予定)で、大人の審査員と一緒に審査をします。公開審査会の1週間前の事前研修会・事前審査会で、審査のポイントを決めて、審査の流れを体験します。

また、活動発表会(平成31年3月開催予定)に参加し、助成団体の活動発表を聞いて、意見交換や交流をします。

平成29年度 助成団体の活動を紹介します！



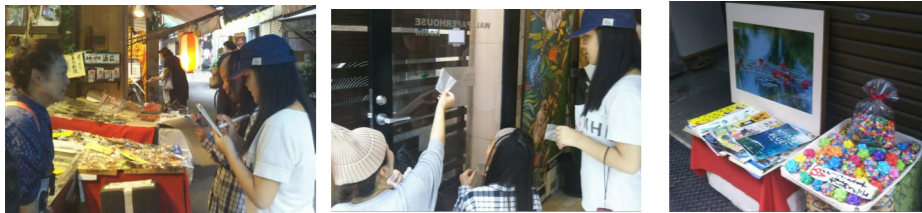
にじいろ発見隊

こども目線でやさしいまちをつくる



はりまや橋小学校6年生3人組のグループで7月から9月にかけて校区のまち歩きを行い、調べた情報をマップにしました。

おすすめ、ふしぎ、おもしろい、びっくり、おいしい、きけん、注目の7つのポイントでまちを調べてきました。インタビューなども行って地域の人と交流もしました。



旭地区防災食プロジェクト

地いきのみんなの食事を守るんジャー



小学生中心のグループで、地域の空き地を使って、防災について学び、伝えるために、防災かまどベンチの製作やさつまいもの栽培をしました。活動には地域住民の方やメンバーの友達、高知大学防災すけっと隊も協力してくれています。



高知市立久重小学校6年生

国際色豊かで災害に負けない久重地区を作ろう



地域の人と「逃げ地図」を作成し、それをもとに危険な場所をチェックして地域探検を行いました。また、地域の特産品を使って外国料理のレシピを作るなど、地域に住む外国人との交流も行ってきました。



南海ふれあい応援隊

ふれあいで地域を元気にしよう



地域の絆を深めるために、ふれあい教室やふれあい食堂を企画しました。地域の大人の方に講師をお願いするなど、こどもから大人まで参加できるものにしました。

ふれあい教室は夏休みを中心に、ふれあい食堂は秋から冬にかけて朝ご飯の時間に行いました。



一宮家おもてなし隊

一宮家はひとつの大家族やき！



あいさつ運動や地域の清掃活動を通して、地域の絆を深めていきました。高齢者施設を訪問し清掃手伝いをしたり、防災の取組みで簡易トイレ作りを行いました。

今年度のテーマは「心」で、ハンセン病患者の施設の訪問や、道徳についても学んできたことをもとにカルタを作成中です。



太平洋学園コミュニティ協力隊

学内・地域の皆さんとより安心して暮らせるまちへ ～被災地から学ぶ防災・被災の対策～



熊本地震の被災地を視察して防災について学んだことをもとに、会報やパネルなどを作成しました。また、防災の呼びかけを書いたティッシュを作成し、高知駅や地域の行事で配布してきました。



『こうちこどもファンド活動』募集要項

まちの誰かが喜ぶようなこどもたちの
まちづくり活動を募集します!!

★応募の受付期間	★審査の方法
平成30年5月10日(木)※当日消印有効	書類審査：事務局が申請書類を確認します。 公開審査：こども審査員と大人審査員が皆さんの説明（公開プレゼンテーション）を聞き、質問して審査します。
★対象になる活動期間	★公開審査会の日時
平成30年7月1日(日)～平成31年2月28日(木)	平成30年6月17日(日)（予定）
★助成の金額	★発表会
1事業あたり 20万円 まで	平成31年3月下旬（予定） ※活動成果を発表し、他団体との交流をします。
★申請書類	★応募団体の資格
事務局から郵送しますので、ご連絡ください。 また2月以降には、地域のふれあいセンターなどにも配布します。 事務局のHPからもダウンロード可能です。	次の①～③の条件を全て満たす団体が対象となります。 ①18歳までのメンバーが3人以上いること ②①のメンバーが一つの家族（兄弟姉妹）だけでないこと ③サポートしてくれる大人が2人以上いること

大歓迎!

「こどもファンドってどんなもの?」「どんな活動が対象になる?」
「まちづくりに興味はあるけど、どうやって活動すればいいかわからない…」
「やりたいことを、どう形にしたらいいいかわからない…」
など、少しでも興味を持たれた方はお気軽に事務局までお問い合わせください!

応募説明会を開催します

日 時 平成30年4月15日(日) 午前10時から（1時間程度）
場 所 高知市市民活動サポートセンター会議室（高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階）
お願い 参加ご希望の方は4月13日（金）までに事務局までご連絡ください。
駐車場がありませんので、できるだけ公共交通機関をご利用の上、お越しください。

★平成29年度活動発表会の会場でも、制度説明を実施します!★
助成を受けて活動した子どもたちの活動発表会を開催します。
発表会の前に制度説明を行いますので、ぜひあわせてご参加ください!
参加希望の方は3月16日までに事務局にご連絡ください。
日時：平成30年3月18日(日) 12:30～13:00
(活動発表会時間:13:30～17:00)
場所：高知市南部健康福祉センター

お問い合わせ
お申し込み先
(事務局)
高知市市民協働部 地域コミュニティ推進課
(お問い合わせ時間 8:30～17:15 土・日・祝を除く)
〒780-8571 高知市鷹匠町2丁目1-43
TEL: 088-823-9080 / FAX: 088-824-9794
E-mail: kodomofund@city.kochi.lg.jp

説明会や発表会以外の日程でも出張説明ができますので、お気軽にご相談ください。

詳しくはHPやfacebookをみてください!

『第7期こども審査員』募集

子どもから応募があった活動を助成
するかどうか子ども目線で審査する!
詳しくは3ページへ



平成30年度



募集案内

『こうちこどもファンド活動』募集

自分たちのまちが良くなるようにやり
たいことを考えて実践する!
詳しくは4ページへ



← こうちこどもファンドについての詳しいことは、こちらのチラシをご覧ください。

高知市市民協働部 地域コミュニティ推進課

第7期子ども審査員 応募用紙

詳しくは3ページへ

平成30年4月1日時点でご記入ください。

ふりがな		性別	男 ・ 女
名前		※該当する方に○をつけてください。	
住所	〒		
生年月日	平成 年 月 日 (歳)	電話番号	・ 自宅電話番号
学校名・学年	(年生)		・ 本人携帯電話番号(自由記入)
応募してみたいと思った理由	あなたが、「子ども審査員をやりたい」と思った理由を書いてください。		
自己PR	高知がどんなまちになってほしいか、自分だったらどんな活動をしてみたいかなど、なんでも自由に書いてください。		
保護者の同意	こうち子どもファンドの第7期子ども審査員に応募および就任することについて同意します。 平成 年 月 日 署名： _____ 印 ※保護者の方がご記入ください。 保護者連絡先(TEL)： _____ 応募者との続柄： _____		

※ご記入の上、事務局まで直接お持ちいただくか、郵送にてお送りください。

※応募理由、自己PR記入欄に書ききれない場合は、別紙に記入していただいても構いません。

「お問い合わせ・お申し込み先」(事務局)
 高知市市民協働部 地域コミュニティ推進課
 (お問い合わせ時間 8:30~17:15 土・日・祝を除く)
 〒780-8571 高知市鷹匠町2丁目1-43
 TEL: 088-823-9080

「こうち子どもファンド」とは

子どもたちが、自分たちのアイデアで、自分たちの住む、または通学や通勤する地域を、より魅力的な住み良い「まち」にするための活動(まちづくり活動)を応援する仕組みの事です。



子どもファンド活動の応募は4ページへ

『第7期子ども審査員』募集要項

子ども審査員の役割は、応募してきたグループの活動に助成するかどうかを同世代の目線で審査することです。
 ※「助成する」とは・・・お金を出して応援することです。

おねがいすること

①事前研修会・事前審査会への参加(平成30年6月10日(日)開催予定)

公開審査会で、どこをポイントとして審査するのかを、子ども審査員のみなさんと一緒に話し合いながら決めます。その後、公開審査会のリハーサルをして、審査の流れを体験します。また、実際に応募があった活動の内容を、大人審査員と一緒に話し合いながら確認します。

②公開審査会への参加(平成30年6月17日(日)開催予定)

まず、応募してきたグループから、取り組みたい活動についての発表を聞きます。次に、それぞれのグループに対して、くわしく聞きたいことなどについて質問し、助成するかどうかを、大人審査員と一緒に審査して決めます。

③活動発表会への参加(平成31年3月下旬開催予定)

助成を受けたグループから、活動成果の発表を聞いた後、意見や感想、メッセージなどを出し合いながら交流会を行います。

応募について

1. 応募資格

- (1) 平成30年4月1日時点で高知市に住んでいる、または市内の学校に通っている方
- (2) 平成30年4月1日時点で小学4年生から高校3年生の方

2. 応募締め切り

平成30年2月28日(水) ※消印有効
 「第7期子ども審査員 応募用紙」によりご応募ください。
 (2ページ目を切り取り、お使いください。)

3. 応募に関する注意事項

- (1) 応募用紙の提出をもって、募集要項の記載内容を承諾したものとみなします。
- (2) 応募用紙は原則お返しいたしません。
- (3) 公開審査会等の写真を、広報紙などへ掲載する場合があります。

4. 子ども審査員の発表

応募用紙の記載内容をもとに大人審査員による面接を行います。選考結果は4月初めにお知らせいたします。

- (1) 面接日：平成30年3月18日(日) 午前10時30分から(予定) ※確定次第、応募者に通知します。
- (2) 面接会場：高知市南部健康福祉センター2階 教養室A(高知市百石町3丁目1-30)



【発行】

高知市 市民協働部 地域コミュニティ推進課

〒780-8571 高知市鷹匠町2丁目1-43

TEL / 088-823-9080

FAX / 088-824-9794

<平成30年7月発行>